

箱庭円舞曲 第二十六楽章

『父が燃えない』 上演台本

作 古川貴義

■設定

会津若松市の火葬場、待合室。

市営の火葬場は市街地から離れた辺鄙な場所であり、訪れる人が居なければ職員も出てこない。よく言えば静謐な空間である。人の出す音よりも、虫や風の音の方が姦しい。

■登場人物

現代

前沢直道(まえさわなおみち)・・・父。柩の中。享年六八歳。

前沢忠道(まえさわただみち)・・・長男(喪主) 三六歳

前沢梨絵(まえさわりえ)・・・長男の妻 三二歳

前沢美咲(まえさわみさき)・・・長女 三四歳

前沢望(まえさわのぞむ)・・・次男 三一歳

宍倉幸子(ししくらさちこ)・・・伯母の娘 四二歳

小和田優(おわたすぐる)・・・叔父 六五歳

山野鶴(やまのつる)・・・叔父の娘 三三歳

伊賀盾男(いがたてお)・・・母輝子の弟 五七歳

広島初(ひろしまはじめ)・・・親戚 三五歳

神保(じんぼ)・・・火葬場の担当者 四〇歳

過去

様々な人が、様々な人間を演じる

右記家族のほか、祖母志津、母輝子、姉の恋人薮崎、ホテル従業員の五味、清掃係の亜希子などが登場する。

■第一場

二〇一八年、夏。
会津若松市斎場、待合室。

火葬場職員の神保(じんぼ)に連れられ、故人の娘である美咲(みさき)と、故人の姉の娘、幸子(さちこ)が現れる。
美咲、幸子、先に室内に入る。神保、遅れて入ってくる。

美咲 あ十分十分(広さが)、
幸子 ・・・。
美咲 オッケーじゃない？
幸子 ・・・。
美咲 幸ちゃん。
幸子 え何で何もない？
美咲 ?何が?
幸子 何もないけどー。
美咲 うんだって誰も来てないから。
幸子 え先に車積んでたとか、
美咲 何が?
幸子 飲み物?
美咲 え何か要る?
幸子 何も言ってなかった?
美咲 お父さん?
幸子 お兄ちゃんお父さん言わないでしょ言えないでしょ
美咲 言ってなかった。
幸子 あそうー。
美咲 うんー。

幸子 お酒とか。
美咲 何でお酒?
幸子 お酒だビールだあるもんなの大体こういう時は、
美咲 えそうなんだ。
幸子 そうーイカとかお煎餅とかカニ味噌とか。
美咲 カニ味噌?
幸子 カニ味噌じゃなくても、イカとか、
美咲 あでも何か、望が言ってた、
幸子 買ってくるって?
美咲 買ってくるって。ビール?一ケースで足りるかなって、
幸子 あじゃそれじゃない?
美咲 え何でお酒要るの?
幸子 お酒いるでしょだって二時間何すんの?
美咲 ああ。
幸子 何して待つ?
美咲 え待ってれば良いんじゃないの?焼けるまで。
幸子 んま、
美咲 だってそういう部屋でしょ?
幸子 まそういう部屋だけど、
美咲 (神保に)ねえ?
神保 ? ええ。
美咲 焼き待ち部屋。
神保 、はい。
幸子 え普通はお酒とか乾きものとか出して、列席者労うもんですよね
美咲 んま、
幸子 えでもそんな人数いないじゃん大体知ってる人だし、
美咲 知ってる人でも、みんな朝から式出てくれてお昼食べないでここま

美咲 来てくれるんだから、それ
 幸子 えじゃごはん出した方が良くない？
 美咲 そう、
 幸子 何でお酒？
 美咲 だからおにぎりだ乾きものだお酒だで、だから軽食、軽食出して、
 幸子 唐揚げとかサンドイッチとかイカ出して、
 美咲 カニ味噌、
 幸子 カニ味噌、カニ味噌用意して、って前沢家で注文しておくのが普通
 美咲 なのそれ注文してなかったんだもんね？
 幸子 え、
 美咲 (神保に)特に、届いてないんですもんね？
 幸子 そうですなえ。
 美咲 それ幸子おばちゃんがただ飲み食いしたいだけ？
 幸子 飲み食いしたいだけじゃない何それそんでおばちゃん言わないで
 美咲 よ従姉妹でしょうが。
 神保 (神保に)すいません。
 幸子 あ、
 神保 (神保に)小野屋さん何か、
 幸子 はい、
 神保 何か、先に何か、オードブルとか、お酒とかイカとか、
 幸子 、何も・・・、
 神保 あそう、
 幸子 まだ、霊柩車も、いらしてないですから、
 美咲 あそうよ、
 幸子 遅いね。
 神保 何やってんだらうね。
 美咲 あやっぱり、そうですよね？
 幸子 え？

神保 先回りされちゃった、
 美咲 そうですそうです。
 神保 あー・・・。
 美咲 えダメでした？
 神保 いやダメってことはないんですけど、まダメですね。
 幸子 え、
 美咲 ごめんなさいあんまり良くないですよね。
 神保 あ、すごく良くないですね。
 幸子 あ、
 神保 ええ。
 美咲 えそうなの？
 神保 はいー。まこういう時代なんでもう、そんなに信心深くなってもア
 美咲 レですけど、一応、野辺送りって聞いたことありません？
 神保 えだつて、ナビが。
 美咲 あ、
 神保 ナビが、
 幸子 バイパス行けって言われちゃったからね。
 美咲 ナビに。
 幸子 ね。バイパス来たから。
 美咲 あんな道できたんですねえ。
 幸子 そうそう去年？
 美咲 でも何か、言われた気がする。
 神保 何を？
 幸子 前の車に付いてきてください、
 美咲 そうそう！
 神保 霊柩車先頭で、葬列になりますって、
 美咲 言われた言われた。
 幸子 でも、

美咲 うん。
 幸子 ね。
 美咲 ナビが。
 幸子 うん。
 美咲 ナビがね……。
 神保 ……。
 幸子 あれお酒ってここで頼めるんですたっけ？
 神保 あ、
 幸子 うちの母の時頼んだ気がするんですけど、
 神保 そうですね何年か前まではお受けしてたんですけど……。
 幸子 やってないんですもんね。
 神保 すみません……。
 幸子 ー。
 美咲 え幸ちゃんも買ってなかったんじゃん。
 幸子 いやうちは追加したの、なくなったから日本酒、
 美咲 あなんだ。
 神保 お茶だけでしたらお出しできます。
 幸子 お茶……。
 神保 あお持ちしときましましょうか？ お持ちしましょう、お持ちしますね
 今、
 幸子 すいません……。
 神保 ……、今ー。
 神保、出て行く。
 美咲 、え何でそんな飲みたいの？
 幸子 飲みたいんじゃないよ飲むもんなのこういう時間は。
 美咲 そうなの？

幸子 え飲まなかった？
 美咲 いつ？
 幸子 前。
 美咲 前っていつ、
 幸子 ばさまの時は？
 美咲 お祖母ちゃん死んだ時帰れてないし。
 幸子 、ああ、
 美咲 お祖父ちゃん時物心付いてないし。
 幸子 、ああ……。
 美咲 え飲むなら買って来るよ？
 幸子 だから飲みたいんじゃないかって、
 美咲 ヨークすぐでしょ？門田ヨーク？
 故人の長男の妻、梨絵(りえ)が現れる。
 梨絵 あ、あの、
 幸子 あ梨絵ちゃん、梨絵ちゃんだっけ？
 梨絵 はい、
 幸子 梨絵ちゃんだ。
 梨絵 そうですー。
 美咲 着きました？
 梨絵 ええ、今、
 幸子 あ、
 梨絵 お義父さん、到着されました。
 幸子 じゃこうしてらんない、
 美咲 そうね、
 梨絵 あの、
 幸子・美咲 ？

梨絵 あ・・・。
幸子 ? どしたの?
美咲 うん。
梨絵 あの、凄い、お坊さん、
幸子 凄いいお坊さん
梨絵 はい凄いいお坊さん、
美咲 何?
梨絵 怒ってました。
幸子 あらら。
梨絵 はい、
美咲 何で?
梨絵 、それはわかんないんですけど、
幸子 霊柩車追い越したからだよ。
美咲 だってそれはナビが。
梨絵 ああ、
美咲 ナビが。
幸子 あ梨絵ちゃんバスだっけ?
梨絵 ええマイクロボスで。
幸子 お酒飲んできた?
梨絵 へ?
幸子 あいや、積んできた?
梨絵 、やー・・・、
幸子 お酒。積んでないか。
美咲 イカ?
幸子 イカ?
梨絵 イカ見てないです。
幸子 オードブルとか、積んでないか。
梨絵 はいー。

幸子 そうだよねえどうすっかな。
美咲 ってかどっか発注しとくんじやないの?普通。
幸子 そう普通その普通をやってなかったからどうすっかなってなつてんの私が。
美咲 え幸ちゃんどうすっかなってなんなくて良いよ幸ちゃんの葬式じゃないんだから、
幸子 それは私の葬式、私んちの葬式ではないけど前沢家の葬式だもんそこは気にするでしょうよ、
美咲 良いよそんな人来てないし。
幸子 でも本家なんだから、
梨絵 あの凄い、お坊さんが、
幸子 あ凄いいお坊さん、
美咲 あそうだそうだね、
と、部屋の入口に、故人の長男、忠道(ただみち)が現れる。

美咲 あ、
幸子 あら忠道くん、
美咲 お兄ちゃんごめん
忠道 坊さん怒ってるから。
幸子 はいはい行こう行こう。
美咲 ナビがさ。
梨絵 行ってるね。
美咲 ナビが。

梨絵、幸子、出て行く。
忠道、室内を見て、止まっている。

美咲 どうした？
忠道 いや・・・。
美咲 何？
忠道 あ、お前、押して。
美咲 何が？
忠道 スイツチ。
美咲 何の？
忠道 点火の。
美咲 え？
忠道 よろしく。
美咲 えやだ。
忠道 ・・・、よろしく。

美咲、出て行こうとする。

美咲 えどしたの？
忠道 いや。
美咲 ？ 何？
忠道 、似てない？
美咲 え？
忠道 何か。
美咲 何が？
忠道 この・・・、なんていうのこの、この、感じ！
美咲 、？
忠道 ・・・・や、たまたま、かな。
美咲 何？
忠道 部屋。あん時の感じ。あの還暦の、親父の、
美咲 ああーん、あ？

忠道 上野の旅館、
美咲 ああー。覚えてない。
忠道 あそう。
美咲 ていうか覚えてたくない。
忠道 、ん？
美咲 忘れてたい。忘れてた。
忠道 思い出したくない。
美咲 うん。
忠道 最後の家族旅行(笑)
美咲 バラバラのね。
忠道 これ、この、二十畳くらいのこの感じ、
美咲 和室ってだけじゃない？
忠道 家族部屋。
美咲 ま家族部屋、親族部屋ね、
忠道 うん。
美咲 、今日だからじゃない？
忠道 え？
美咲 これから、お父さん、燃やすからって、
忠道 ああ、
美咲 それで何かセンチメンタリスト？
忠道 、あ？

神保、お茶用のポットと急須、お茶の葉を持ち入ってくる。
そのすぐ後から梨絵が現れる。

忠道 あ、
美咲 あお茶、
梨絵 忠道くん、

神保 喪主様、
忠道 ああ
梨絵 凄い、
神保 ご住職が
梨絵 怒ってる、
神保 お待ちです。
忠道 すみません、
梨絵 凄い、
忠道 今、行きます。
神保 お願いします。

梨絵、先に出て行く。

忠道、美咲、出て行きながら

美咲 えビール買ってある？
忠道 何で？
美咲 何か幸ちゃんが凄い気にしてて
忠道 幸子が飲むの？
美咲 幸ちゃんも飲むんじゃない？知らないけど。
忠道 あいつあったらある分飲む女だぞ。
美咲 知らないよ。
忠道 あいつ来る日は酒買つといちや駄目なんだよ。

と、忠道、美咲、出て行く。

神保、ポットなどを適宜置き、室内を眺める。
遠くお経が聞こえる。

スイッチの音、に伴って、
火葬炉の中が熱せられ、高温になっていく。

意外な場所に、タイトル『父が燃えない』が現れる。

神保、出て行く。

■第二場

二の二 二〇一一年、夏。深夜。

東京都内の老舗旅館。

忠道、美咲、望、小和田優（おわだすぐる）が演じる直道、野球観戦から帰って来た。

一緒に、伊賀盾男（いがたてお）、山野鶴（やまのつる）の二人も入ってきているが、特に家族と会話はしない。

誰かが電気を点ける。みんなほろ酔い。

直道は、畳のチームの応援の法被を着たままである。

しかし試合は惨敗したようで、切なくも不機嫌そうである。各々、荷物を置いたり布団に座ったりしながら。

忠道、旅館のメニューを開いて眺めながら。

美咲、携帯電話をいじり出す。

忠道 （直道に）ビール飲む？

直道 ああ？

望 飲む。

美咲 えーまだ飲むの？ いっぱい飲んだでしょー？

望 うるさいなあ。

忠道 じゃ良いよ美咲は飲まなくて、え飲む？

直道 ああ……。

忠道 あ高いな。

望 え？

忠道 高い。クラブかつつの。外で買ってくりや良かったな。

望 行ってくる？

忠道 ああ。

望 ビール？

忠道 お父さん、（飲むの？）

直道 ……。

望 ……燃え尽きた？（笑）

直道 ハハ。

忠道 お父さん、

……俺が観ると負けんだよ。

忠道 え？

美咲 ジャイアンツ？

直道 ー。

望 あー。 テレビもそう。観ない日は勝つ。

直道 えそれ関係ないと思うよ？

美咲 ああ？

直道 それ関係ない気のせいだよマーフィのせいだよ。

美咲 マーフィ？

直道 だってお父さん観てて勝った日あるしお父さん観てないけど負け

た日あるよ？

直道 そういうことを言ってるんじゃないじゃない。

美咲 じゃ何というマーフィ？

直道 、だからせっかく観てたのに負けちゃったっていう、悔しさが、い

い思い出より悔しい思い出の方が、記憶に残りやすいってことでし

よう？

美咲 あ、（メールが届いたのでそちらに興味）

直道 ん美咲？

忠道 お父さんビールは？

直道 ああ？

望 でも今日は向こうマエケン先発じゃあね。
直道 ああ、凄かったなあねな。
望 チェンジアップ？
直道 かすりもしないのな。
望 カットボール？
忠道 飲まないの？
直道 え？ああ、
望 チェンジアップ？
直道 あ？
忠道 あ焼酎が良いんだっけ。
直道 あうんー。
望 カットボール？
直道 あ？
望 凄いの、
直道 あそうそう、
忠道 えビールで良い？
直道 うん？
忠道 焼酎無いつぽい、あハウスワインだって。
直道 あれ川口がコーチになってから使い始めたんだよな。
望 川口って巨人の？
忠道 お父さんワイン。
直道 広島。
望 え日ハムじゃ、
直道 ワイン。
美咲 お父さんワインだって。
直道 ああ？
忠道 ワイン飲む？
直道 ワイン？

望 ビールは？
直道 嫌い、ワイン。
忠道 あそつかそうだ、(とメニューをめくる)
直道 あんなジュースの成り損ね、
忠道 成り損ねって(笑) じゃビールで良いのね？
直道 うんー。
忠道 やべ！

美咲、携帯電話を見て、慌てて立ち上がる。

望 (忠道と美咲両方に)えどしたの？
美咲 ん？ あ、うん。
忠道 風呂。
望 え？
忠道 風呂行こ。温泉十時までだっけ！
直道 あらら行かねば。
直道 えヤバイ行くよお父さん、
忠道 ん？おお、
直道 行っってらっしゃーい。
美咲 え入んないの？
忠道 ああだし内風呂で良いですー。
美咲 あーそう。
望 僕朝入る。
忠道 あそう、(直道に)行こう。行っってくる！

忠道、色々抱えてドアから出て行く。
直道、ゆるゆるしている。
忠道、慌てて戻って来て、

忠道 お父さん!!

直道 行く行く、

忠道 早く!

直道 追っ掛けるよ、

忠道、出て行く。

美咲、携帯電話を見て一安心し、仕舞う。

直道 お母さんみたいだ、

望 ああ(笑)

直道、出て行くとする。

美咲 行つてらっしゃーい、

直道 おお。

美咲 えそれ(法被)脱いでけば?

直道 え?

美咲 はっぴ!

直道 ああ、

美咲 みつともない。お兄ちゃんに怒られるよ!

直道 みつともないことないでしょう、

望 何か買ってきとく? ビール?

直道 別に、要らない。

望 あそう。

直道 あい。行ってきます。

美咲・望 行つてらっしゃーい、

と、直道、法被を着たまま、出て行く。

美咲 何かさー、

望 ん?

美咲 頑張り過ぎじゃない?

望 え兄貴?

美咲 うんー。

望 えそうかな。

美咲 もうちよつと何て言うか、緩くても良いじゃん。

望 あー、

美咲 段取り過ぎていうかさあ、

望 あ行くところか?

美咲 そうそうそう。今日だつてさー、何か、後樂園の何か、ちっさい店

望 で焼き鳥買って、とかさ、

美咲 ああ、

望 あれ何であそこで買わなきゃなわけ?

美咲 なんか隠れた名店とかなんじゃないの?

望 ふっつー! ふっつーだったじゃん! むしろちよつと不味かつ

美咲 た。

望 んー。

直道、ゆつたりと戻ってきて、

■二の二

二〇一八年、夏。

会津若松市斎場、待合室。

火葬は始まった模様。

直道、優に戻り、

優 ちよつと待って。

美咲・望？

優 違う。

望 え何？

優 兄貴(直道)、ワイン好きだったはずじゃねえか？

望 え嘘？

優 飲んでたろー、家で。

望 飲んでた？

美咲 飲んでたつけ。

優 (盾男に)ねえ？

盾男 やちよつと、分かんないですねえ。

優 ええ？ いや確か好きだったはずだぞ？ うんちく語りながらお

姉ちゃんに注いでたぞ？ (鶴に)なあ？

鶴 何で私？

優 あお姉ちゃんに注いでたなんて言ったら怒られるな(笑) 嘘うそ、

望 だはは(笑)

望 えお父さんそういう店行く人だったんだ・・・。

優 冗談だつて望くん。

望 そつちで解消してたんだ・・・。

鶴 望、

優 何お父さん一緒に行つてたの？(笑)

優 俺？ 俺は行かないよ兄貴に連れてかれてたの。

美咲 女の子は好きだったからねえ。

優 なあ。

美咲 うん。

望 ああ・・・。

優 おー。そりや輝子さんも愛想尽かすつてな。

望 あ優おじちゃん、

優 ああ？

盾男 ……。

皆、何となく盾男を見てしまう。

盾男 ん？

優 あ。

盾男 、ああ、お気になさらず。

優 ……いやー、盾男くんもよくいらしたねえ。

盾男 あ、・・・ハハ。

優 ああ、ごめんなさいごめんなさい。(どこかへ)ビールまだですか

！！？

美咲 幸ちゃんが買いに行つてくれてる、

優 幸子？

美咲 門田ヨーク？

優 飲ませて大丈夫か？あいつ。

美咲 みんな言うね。

鶴 そんな凄いの？

優 知らない？

美咲 いやしいのは知ってる。

優 いやしい(笑)

美咲 うん。

望 がめついいじゃない？

美咲 がめついい？

望 なんかも全部食べるんだよね。

鶴 あー(笑)

望 残しちゃいかんって、法事会食の残りとか、
 優 育ちだろなー。
 望 ええ？
 優 宍倉はだってほら、豪農だもん。
 望 あー。
 優 米粒一粒残したらぶん殴られる家だもん。
 望 だった？
 美咲 それうちも。
 優 ま前沢は豪農ってほどじゃねえけどな。
 美咲 でも残したら怒られたよ？
 優 兄貴ちゃんと怒ってた。
 美咲 うん。
 望 おじちゃん、
 優 ？
 望 宍倉、田んぼやめたんだよ。
 望 ？
 望 えええー！！！！
 望 えそんな？
 望 いや、だって、そうだろー！
 望 え、
 優 宍倉、田んぼやめたのー？
 望 うん。だって登美伯母ちゃん死んでからこつち、洋伯父ちゃんもま
 望 ともに動けなかったみたいだから、幸ちゃん一人じゃ、
 望 あーそつか・・・。
 望 どこともそんな感じなんだろうねー。
 望 お世継ぎがね。
 美咲 うんー。人んちのと言えないけどうちも(笑)

優 ああー。
 望 あ結構笑えないとこね？そこ。
 美咲 あうん。
 望 今日のうちに話しとかないとお兄ちゃん言ってた。
 優 ええー・・・。幸子継がなかったんだ。
 望 や、幸子おばちゃん継いでも、ほら、
 望 ？
 望 これがこれで、(旦那が居なくて、とジェスチャー)ねえ？
 望 ー、
 優 アラフォー独身。
 望 農地土地家屋付き。
 美咲 うん。
 望 入り婿募集。
 美咲 そそそそ(笑)
 望 (笑)
 望 あー。
 優 市場価値高そうだね。
 望 ？
 望 間。
 望 ああ、いえ。
 望 なはは。
 望 高けりや売れてなきやおかしいんで。
 望 、ああ。
 望 ええ。(と美咲を見る)
 望 な。(と美咲を見る)

美咲 何故見る。見た。

優・鶴・望 (笑)

盾男 (皆に遅れて笑う)

間。

美咲 あ、お母さん。

盾男 はい？

美咲 来たんですよ、その旅館に。

盾男 あそうですか。

美咲 うんー。

望 ケーキ食ってたね。

美咲 そうそうそう押入れてね。

望 そうそうそう(笑)

盾男 押入れてケーキを？

美咲 そう何かそんな感じになっちゃったの。

盾男 姉が。

美咲 はい。

望 ま僕らのせい、っていうかお兄ちゃんのせい、

美咲 いや私らのせいだよ、家族のせい。

望 あー。

盾男 、えその時はもう、

美咲 失踪後失踪後。

盾男 あー、じゃ佐渡から、

美咲 ええ。泣いてたよね望。

望 え泣いてないし。

美咲 え泣いてたよ望くん。

望 え何故泣く必要がある？

美咲 知らないよ。

盾男 なぜ、姉は、わざわざ？

望 ？

盾男 佐渡から、上野まで。

美咲 そうだ佐渡にいたんだよねお母さん何故か。

盾男 なぜ、わざわざ？

望 いや、家族旅行だからじゃないですか？

盾男 ・・・。

望 はい。親父の還暦祝うって。

盾男 失踪してたのに？

望 家族旅行ですから。

盾男 ・・・。

望 お兄ちゃんがあれ連絡してたんでしょ？サプライズとかつつて

美咲 僕らにも内緒で、

望 そうそうそうだかそんな時の旅館に似てるって言うんだけどお兄ち

美咲 ゃん似てくない？別に。

望 ？ 似てない。

美咲 ねえ。

望 別に、うん。

美咲 何を見て言ってるんだかって。

望 和室ってことしか似てない。

鶴 (優に)え失踪？

優 そう。

鶴 え、

優 ん？

鶴 そうだったんだー。

優 あれ知らなかったか。

鶴 いや失踪と思っただけだった。

鶴 旦那とジャスコ行ってる。

望 あこないんだ。

鶴 うん。直道おじちゃんとジャスコどつちが良い？って聞いたら「ジ

ヤスコ！」って。

美咲 イオン？

鶴 あイオンイオン。

優 兄貴ジャスコに負けたかー。

美咲 ・・・。

鶴 イオン。

問。

優 、あれ、盾男くん、

盾男 はい？

優 いらしてないよねえ？

盾男 はい？

優 志津ばんちゃの葬式。

盾男 そうですねおそらく。

優 うん。

盾男 ・・・。

優 ああ。

盾男 姉の、義母ですよね？

優 、志津ばんちゃ？

盾男 ええ。

優 そうそう。俺のお袋。

盾男 ああ、

優 こいつらのお祖母ちゃん。

望 そうそう。

盾男 じゃちよつと、来なかったかもしれないですね。

優 まそうだよねえ。

盾男 ええ。

優 今日も、ギリギリ、ねえ？

盾男 いや、今日は、今日で。

優 あ、

盾男 ええ。

優 ああー。

盾男 一応、義兄ですから、

美咲 あ籍抜いてないもんね。

盾男 うん。

優 あー。

問。

優 ビール、遅いね。

美咲 帰って来ないね。

優 途中で飲んでんじゃねえか？

美咲 (望に)あなんかビール買ってたやつあれは？

望 あれ家用、

美咲 あそうなんだ。

望 だってこれからみんなうちで飲むでしょ？

優 精進落としな。

望 1ケースで足りるよね。

優 幸子は。

美咲 門田ヨーク。

優 ジャスコまで行ったんじゃねえだろうな。

美咲 イオンね。

美咲 ああ、
望 はい。
梨絵 前沢兄弟、集合、
望 あはい。
美咲 何だろね。

美咲、望、出て行きながら、

梨絵 お坊さんが、
美咲 えまたあの坊さん？
梨絵 うん。
望 何だろねあのお坊さん。
美咲 お祖母ちゃん時と同じ坊さん？
望 そうそうウンコ漏らされた
鶴 えあの人？
優 あー！
鶴 ハゲたねー！！

梨絵、美咲、望、見えなくなる。

鶴 結構しつかり、髪の毛あつたよねえ？前、
優 そうだっけね。
鶴 うんー。
優 そうかー。

特に、誰も何も発しない。
各々、何となく、座る。

沈黙。

鶴、座り直す。
優、盾男、反応してしまう。

鶴 ん？
優 いや？
鶴 うん。

沈黙。

優 盾男くん・・・、
盾男 ん、はい。
優 ……
盾男 何でしょう。
優 盾男くん・・・、
盾男 はい。
優 ……
盾男 あ何か、ありました？
優 ごめん何も用意せずに話し掛けちゃった(笑)
盾男 ……
優 なは。
盾男 ……(笑)
優 ……早いよなあ。
盾男 、ねえ・・・。
優 まだ、六十、八？
盾男 、ですか？
優 あ享年かそれ、六十七か。

盾男 ああ。
優 早いよ……。

沈黙。

広島初(ひろしまはじめ)、入ってくる。

鶴 あ、
優 お帰り！
広島 あ、ごめんなさい遅くなりました。
優 ?
鶴 どうもー。
優 今来た。
鶴 今来ました。
広島

一同、広島に注目している。会った記憶が無いようだ。

広島 あー……、
鶴 あの、どうぞどうぞ。
広島 あすいません。(と、座る)
鶴 いえ。
広島 ……(鶴に)あ、忠道君の？
鶴 ん？
広島 ……忠道くんの。
鶴 ……えー……、
広島 何て言えば良いんだその、
鶴 はい、
広島 うわなり、ちゅうか後添え、

鶴 あ、
広島 奥さん、再婚、
鶴 違いますね。
広島 奥さん、
鶴 違いますね。
鶴 再婚、奥さん、
広島 私じゃないです、
鶴 えでも、再婚したって、
鶴 私じゃないですね。
広島 あ。
鶴 はいー。
鶴 あー。(と、盾男を見る)
盾男 私じゃないです。
広島 ああ、
盾男 はい。
鶴 じゃどなたと……？
鶴 何でこの中から選ぶ？
鶴 あ、あそつか(笑)
盾男 今向こうに、何かお坊さんが話あるって、向こうで、
広島 あ、ロビー？
盾男 あロビーにいらした？
鶴 ロビーに？
盾男 忠道くんたち。
広島 ロビー誰もいませんでした。
盾男 あ、
広島 はい。
盾男 ああ……。

沈黙。

優 ……久、し振り？
広島 あ、
優 だ、ねえ。
広島 ねえ。
優 うんー。いつぶりだ。
広島 あー、
優 志津ばんちやの葬式は、
広島 僕来られなかつたんです。
優 ああー。
広島 ええ……。
優 ……。
広島 遠いんで。
優 あ、遠いのね？
広島 、はい。なかなか。
優 あー。えー、遠い……。 (鶴に) 遠い。
鶴 何？
優 遠い人。
広島 遠いっちゃ遠い、ですねえ。
優 久し振りだあねえ。
広島 えお会いしたことありましたっけ？
優 あん？
広島 初めてな気がするんですけど、
優 あそうお？
広島 はい。
優 あー……。
広島 あ、北海道です。

優 あ北海道！
広島 広島。
優 あ広島？
広島 そうですそうですー、
優 あああ北海道ね！？
広島 ええええー。
優 ああああああ、
広島 広島ですー。
優 北海道の、広島。
広島 はいー。
盾男 紛らわしいね(笑)
広島 大体言われます(笑)
盾男 あ、
優 どうもー、あ香典は、
広島 ん？ あ、忠道君に。
盾男 あ、忠道君はー、
広島 お坊さん、
ああ、
ロビーに居なかつたらどつか部屋だね、何かあるんですかね？小さい部屋。
優 どうだろね。
盾男 何か、怒ってるって、
広島 じゃあ、渡してきます。(と、立ち上がって)
盾男 ん、ん？
広島 ？ 香典。
盾男 ああ。
と、広島、出て行く。

間。

優 鶴 誰だ。
優 鶴 うん。
優 鶴 会ったことないぞ。
優 鶴 うん。
優 鶴 お前も？
優 鶴 私の方がはるかに遭遇率低いでしょ。
優 鶴 あそうかさだな。
盾男 北海道ってことは、
優 鶴 やだから広島。
盾男 広島。
優 鶴 広島って？
優 鶴 広島だよ。
優 鶴 北海道は？
優 鶴 広島。
優 鶴 どっちなの？
優 鶴 祖母ちゃんの、こっちの、志津ばんちやの、兄？舎弟？
優 鶴 広島？
優 鶴 広島？
盾男 兄じゃないですか？
優 鶴 兄か。
盾男 はい、特攻隊だった、
優 鶴 あーそうそうそう、
盾男 ええ、北海道の、
優 鶴 北海道の広島ってどこ？
優 鶴 だから、

優 鶴 ジャパン？
盾男 広島家、
優 鶴 え、
盾男 苗字が。
優 鶴 あー！ ああああ、広島、
優 鶴 うん。
優 鶴 家が北海道。
優 鶴 婿に行ったの、龍郎伯父ちゃんて人がいて、
優 鶴 特攻して死んだ。
優 鶴 特攻して死んでない。
盾男 宇多川家。
優 鶴 ん、そうそう、宇多川から出て、北海道に、婿に、いや婿に行つて、
優 鶴 北海道に越したんじゃなかったか？ やーもう覚えてる人がもう、
優 鶴 宇多川・・・。
優 鶴 志津ばんちやの実家。
優 鶴 へえ。
優 鶴 あちようどこの辺だよ。青木、北青木(地名)。
優 鶴 ん、宇多川は？
優 鶴 志津ばんちやの実家。
優 鶴 青木は？
優 鶴 この辺り。北青木の宇多川、家から出た、北海道の広島。
優 鶴 、ちよつと。パンクだ。
盾男 まあ、
優 鶴 宇多川家の、三番目？
盾男 二番目。三番目が志津ばんちやで、その下にも叔父ちゃんと叔母ちゃんいたんだけどまあみんな死んじまったなあもう。
優 鶴 うちの？
盾男 うちの、

鶴 うちはどこ？
 優 鶴 うちには小和田、前沢家の清道祖父ちゃんと嫁に来た志津ばんちや、
 から生まれた前沢登美、これは宍倉に嫁いで宍倉登美、前沢直道、
 兄貴が家を継ぎ、前沢優、俺な？優、
 鶴 お父さん、
 優 鶴 前沢優、が小和田家に入って小和田優となり、鶴、娘、お前が生ま
 れて、やがて小和田鶴は山野家に嫁ぎ、山野鶴となりました。
 鶴 あ、もう結構です。
 優 鶴 何だそれ！
 鶴 脳が受け入れを拒み始めた。
 優 鶴 お前が教えるって言ったんじゃないか。
 鶴 ナハナハ。
 優 鶴 、はあ？
 鶴 ナハナハ。
 優 鶴 宇多川家は、今は、誰も・・・。
 鶴 うんー。
 優 鶴 子が続かなかった。
 盾男 みたいだねえ。
 優 鶴 あ、やっぱり。
 盾男 うんー。ま、ご縁がなかったんだろうなー。ってかよく知ってるね
 え。
 盾男 いやまあ。
 優 鶴 遠いのに。
 盾男 、まままま。
 間。
 鶴 え、何しに？

盾男 はい？
 鶴 はい。
 盾男 、弔問に。
 鶴 直道おじちゃんの？
 盾男 はい。
 鶴 何で？
 優 鶴 え？
 鶴 鶴。もう、関係ないのに。
 盾男 関係は、あるじゃないですか。
 鶴 えなくないですか？
 盾男 だから義理の兄ですから、
 鶴 義理の兄でも、実の姉は居ないのに。
 鶴 、いや、ええ。
 優 鶴 ねえ。
 鶴 やめなさい今日は、
 盾男 今日はって(笑)
 鶴 今日。兄貴の日だから。
 盾男 私にとっても、直道さんは兄ですから、唯一の。
 鶴 、うんー。
 鶴 ・・・。
 盾男 きちんと、連絡いただいたので。忠道くんから。
 優 鶴 偉いなあいつ。
 盾男 (優に)えお母さん来なくて平気なの？
 鶴 ん？
 優 鶴 ああ、どこ行ってんだろうな。
 盾男 フレンドのところでしょ？
 鶴 あ、(輝子じゃない)

望 どこかで、お会いしてましたっけ……？
忠道 え、待って待って待って、記憶に無いとか言わせねえよ！？

望 記憶に無い。
忠道 はあ！？ だってお前、高校出るまで毎日この人の弁当食ってたっしょ？

望 お母さんの弁当は食べてたけど、この人のじゃないと思う。
忠道 待って待って待ってバカバカバカ、え、この顔！ この何か、この、この感じ！！

望 ？（首を捻る）
忠道 弁当のおかずがキュウリ一本だけとかやらかしたこの感じ！！
五味 え？

望 ？（首を捻る）
忠道 や、母！ 母！ 俺らの、母！ お前の、ここ（望の顔のパーツを示し）、遺伝！ ここ（輝子の顔のパーツを示し）、遺伝！

望 僕この人の子宮から出てきた記憶無いからさ、
忠道 はあ！？

望 分かんないよ。
忠道 え何言ってるのお前？俺もねえよそんな記憶！ 誰もねえよ！
望 だから、分かんないでしょ？

望 ちがちがちがちが、だ、ちが、
五味 にかかには受け入れ難い現実というものもごさいますよ？
忠道 いやおかしいからお母さんの顔分かんないとか！ だってお前何年、十八年、一緒に暮らして、

望 良いよお兄ちゃんもう。
忠道 、え？

望 お母さんが悪いの。
忠道 いやいやいや、
輝子 しょうがないって。

忠道 えお母さん。

望 ……
輝子 ……ごめんね。
望 出て行って下さい。
輝子 ！

望 ……お前、
五味 望さん、（と、望を宥めようとする）
望 触んなよ部外者！！

望 ……！！
五味 誰なんだよあんた！！
望 コンシェルジュの五味と申し

輝子 出てけよ早くー！！
望 ……ごめんね。

と、輝子、寂しげに押入れの中に入って行く。

忠道 お母さん！
望 ……

押入れの襖が閉まる。
望、がっくりと項垂れる。

望 ……望。
忠道 何で今更！？ しかもこんなタイミングで！？ え、これ、お父さんの還暦祝いじゃないの！？

望 俺が呼んだんだよ。
忠道 何で！？

望 嬉しくないの？

望 嬉しくないわけ、ないこともないだろ！？
 忠道 ? どっちだ？
 五味 はて。
 望 兄ちゃん、え、お兄ちゃんは、さ、何なの？
 忠道 え？
 望 あの女の人の何なの？
 忠道 ・・・息子だよ。
 望 兄ちゃんはお父さんの息子じゃないの？
 忠道 んだ、だから、お父さんと、あの女、お母さんとの子供だよ。
 望 ごめん意味が分からない。
 忠道 ・・・どうした？
 望 だって、だってさー！！
 忠道 うん。
 望 何か・・・、半端なんだよ・・・。
 忠道 何が。
 望 や、何だろう、んーと、あの、小学校ん時にさ、父親参観とかで母親来てるとかさ、授業参観でみんなお母さん並んでんのに一人だけ父親の奴とかさ、居たけどさ、
 忠道 うん。
 望 そういう人は良いんだよ、そういう人が何か、そうなる感じはすげー分かんだよ、でもさ、
 忠道 うん。
 望 僕の場合、自分が実家出た途端、どっか行っちゃったつっわれてさ、
 忠道 ああ、
 望 いきなり、居なくなった人なわけでき、
 忠道 うん。
 望 それを、それが、何それって感じなのよ、最早。
 忠道 うん。

望 分かんなくなっちゃったんだよ・・・。
 忠道 まあ、急、っていうか、いきなりだったかな・・・。
 望 だって、実家、え、実家つつたら母親じゃないの！？ お母さんじゃないの！？
 忠道 あ、んーでも親父、
 望 お父さん居るけどさ、お父さんはお父さんじゃん、お母さんではないじゃん。
 忠道 まあそうだけど。
 望 だって兄ちゃん、一人暮らしして最初、米とか炊くじゃん多少、最初だけな。
 忠道 んで思い出すのって、うちで食ってた米なわけじゃん、
 望 ああ。
 望 うちで飲んでた味噌汁なわけじゃん。その、うちが、何か、いきなり無くなったみたいないな感じだったんだよ！？
 忠道 あーの、
 望 何！
 望 、お前結構、
 忠道 何？
 望 、マザコンだったんだな・・・。
 望 マザコンとかじゃないし！！
 忠道 いや、
 望 いやマザコンだよ！？ マザコンだしファザコンだよ！ 親コンだよ！！ 超大切だよ親！！
 忠道 ・・・。
 望 ファミリー、コンプレックス。・・・ファミ、コン。
 望 ?
 望 ファミコン！
 望 、誰だよこいつ！

五味 コンシェルジュの五味と申します。
望 整理付いてないんだ、と思う、全然。

五味、押入れを勢い良く開ける。
と、輝子が聞き耳を立てていた。

五味 マザー。

望 ……

輝子 ……何かね、

望 ……うん。

輝子 ……何かさー。

望 はい。

輝子、思い切り息を吸い、少し吐き、話し出す。

輝子 あんたが、大学受かって、部屋見付けて引っ越してった途端、あー、
前沢家での私の仕事は終わった、みたいになっちゃって。

望 ん、うん、

輝子 そしたら私、何かそのまま、軽トラで走り出してて、野菜とか積ん

だまま。猛スピードで。海まで、新潟の。

望 うん。結構行つたね。

輝子 そしたらちようど、フェリーが居たの。カーフェリー。で、車ごと

乗って見たの。

望 ……ん？

輝子 気付いたら、佐渡島に居たの。六年。

五味 六年！

輝子 以上。

望 あー、んー……、ハハハ……。

輝子 ……、おいで！

と、輝子、手を広げ、胸に飛び込んで来い、という体制。
望、動こうとしない。誰も、動こうとしない。

■二の四

二〇一八年、夏。

会津若松市斎場、待合室。

盾男、広島、それぞれ戻って、

盾男 おいで？

忠道 おいで。

望 つていう、母に、飛び込めますか！？

盾男 飛び込みたかった？

望 の、かも、しれない。本当は。

忠道 ファミコンだもんな。

望 うん。も良いよそれは。

盾男 だから押し入れに。

忠道 そうそうサプライズで。

盾男 ははあ。

忠道 十二時回った瞬間に、ケーキ持って出てきて貰おうと思って、

盾男 押し入れから。

忠道 そそ。

望 まあ、紆余曲折あって、全部台無しになったわけなんですけれど、

忠道 祖母ちゃんがな。

望 そこもサプライズだったよね……。

盾男 え？

忠道 あ、母的には、見失った、仕事が終わった的なこと言っていましたけど、
 盾男 はい。
 忠道 軽トラで海を越える引き金は、祖母ちゃんだったらしく。
 盾男 、そうなんだね・・・。
 忠道 ええ。
 盾男 へえ・・・。
 望 まどうなんだろうね。祖母ちゃんの蓄積があつて、僕が家出たのが引き金かもしれないし。
 忠道 ま、分かんないな。
 望 お母さんじゃないからね。
 忠道 うん。
 盾男 ・・・・、戻りたい、つて、
 忠道・望 ？
 盾男 言つてたよ？
 望 ・・・・。
 忠道 ・・・・本当ですか？
 盾男 、ええ。
 忠道 ・・・・。
 盾男 今日も。
 望 ん？
 盾男 私は、行けないからつて。
 忠道 ・・・・。
 望 本当だと、良いですね・・・。
 忠道 広島、鼻水をすする。
 忠道 え？

梨絵 あ、ティッシュ。
 広島 さつきごめんね、大丈夫だった？
 忠道 あ、ええ、むしろ助かった、りました。
 広島 あそう。
 忠道 ええ。
 広島 じゃ良かった。
 盾男 お坊さん？
 忠道 そうそう。
 盾男 え何が、まずかったの？
 望 いやー、
 望 あれーは結局何だったんだらうね。
 忠道 向こうも向こうだよな。
 梨絵 うん。ずっと黙つてて。
 忠道 怒るなら怒つてくれればいいのにね。
 梨絵 ずっと黙つてるからね。
 忠道 言えば良いのに。
 梨絵 ずっと黙つてる。
 盾男 何で怒つてるか、
 忠道 言わないの。
 梨絵 ずっと黙つてる。
 望 一番面倒くさい人種だよね。
 梨絵 うんー・・・ずっと黙つてる。
 広島 え、俺が持ってきた香典そのまま渡してたけど、
 忠道 坊さんに？
 広島 うん。あれはあういうものなの？こっちでは。
 忠道 いやいやいやいや。
 広島 あ、だよね。
 忠道 はい。

広島 会津だとそうなのかって思っちゃった。
 望 広島でも渡さないでしょ。
 広島 北海道？
 望 北海道。
 忠道 広島は？
 広島 ま地域による？ でかいからね北海道。色々だから。アイヌ流もあるし。
 望 あー。地域って言うか宗派だ。
 広島 あそうそう仏教。
 望 あー。
 忠道 え北海道、の、どの辺なんですか？広島。
 広島 札幌。
 忠道 札幌？
 広島 うん。
 望 札幌？(笑)
 広島 ま大体札幌だから。
 忠道 大体札幌？
 広島 うん。
 梨絵 北海道大体札幌。
 広島 あ、や、札幌と新千歳の間、
 望 空港？
 広島 うん新千歳空港、札幌と空港の狭間、が、北広島。北広島市。
 梨絵 あ、え？
 望 あ、市があるんすね？
 広島 そうそう。北海道北広島市。
 望 ああ。
 梨絵 の、広島さん。
 広島 広島初。

梨絵 わー何て紛らわしい。
 広島 親父もめんどくさがってました(笑) あ、うちも、親父がお世話になってましたー。
 忠道 ああ、いえいえうちは何も。
 広島 いや去年、来て貰っちゃったから直道さんに。
 望 え、
 広島 親父の葬式。
 忠道 ああ、そうなんですネ？
 広島 うんー。広島来てもらったと思ったら、一年しないうちに自分が逝っちゃうんだもん。
 忠道 あー。
 広島 ねえ(苦笑)
 間。
 広島 まったく、何て言ったらいいか、ねえー。・・・(愁傷様としか。
 忠道 え、親父が、従兄弟？
 広島 になるのかな？
 忠道 そうですそうです北海道は確か。
 広島 じゃ、はどこだ。(忠道と広島が)
 忠道 ですね、
 広島 、はとこー。(望と広島が)
 望 うん。
 梨絵 (梨絵に)はと、はとこー。(梨絵と広島が)
 梨絵 (苦笑)

広島、その流れで盾男を見るが、何も言わず戻る。

盾男 (梨絵に)お坊さんは？
梨絵 はい？
盾男 大丈夫だったの？
梨絵 え坊さん？
盾男 うん。
梨絵 あー、
忠道 あれちよつと理不尽だよな。
盾男 そうなの？
忠道 うん。
盾男 あ何か、風習違ったとか？
梨絵 どう、なんでしよう。
忠道 や、言ったとおりに包んだらアレだもん。
盾男 あそうなんだ。
忠道 うん。
盾男 お布施？
忠道 はい。
盾男 足りなかった。
忠道 、なんだろうね、言えってな。
梨絵 うんー。
忠道 言っとけって。
盾男 え、いくら包んだの？
忠道 いくら？
盾男 うん。
忠道 いくらっていうか・・・。
盾男 うん。
忠道 気持ち。
盾男 うん？
忠道 お気持ちで、って言うから。

盾男 いくら？
忠道 気持ち？
盾男 、お金は？
忠道 包んでない。
盾男 、駄目でしょう！！
忠道 いやいやいや、包んだから、気持ち。
盾男 、気持ちって何？
忠道 だから、こう、(気持ちの封入を再現して)
望 念？
忠道 念な。スマイルな。
望 茶封筒に入れてね(笑)
忠道 ハッ！(念を封入した)
盾男 空で渡したの？
忠道 イエス。
盾男 ワクオ。
忠道 プライストレス。
盾男 常識が・・・、
忠道 常識？
盾男 普通は、包むもんなんだよ、お金を。
忠道 や、だったらさ、だったら、言っというって話で！(望に)なあ？
望 うん。
望 俺らは、「気持ちで結構です」って言われてたからそのまんま受け止めたのであって。そんなん、現金欲しかったなら気持ちとか言うな
望 って。
望 金寄せって怒るのも大した生臭坊主だよ。(梨絵に)ね。
梨絵 欲しいものは、欲しいって言って欲しい。
望 うんー。
梨絵 面倒くさい。

忠道 な。

梨絵 正直に言えば良いのに言わないで、黙ってブスっとしてて、後で陰

盾男 でウジウジ言うんだよあの手の人って。迷惑ー。

梨絵 罰当たりな・・・。

望 あ、ごめんなさい。

盾男 までもそんな坊さんだったよね。

盾男 いやいやいや、お金は、渡さなきゃでしょ。

忠道 何で？

盾男 やそりや、タダじゃお寺さんだって商売になんないし。

忠道 えお寺って商売なの？

盾男 や商売じゃないよ？

忠道 信仰でしょ？

盾男 そうね。

忠道 俺たち別に仏道信じてないし。

盾男 、でも、戒名付けて貰ったじゃない。

忠道 仕方なくね。周りがうるさいから。

盾男 周り？

忠道 周り。幸子とか優叔父ちゃんとか。

盾男 そこ常識はある。

忠道 あと美咲も。

盾男 、戒名代は？

忠道 渡してない。

盾男 、そこは包まなきゃ！

忠道 何で？

盾男 いやいやいや、そうでしょうよ！ だってこういうのは、もう、忠

道君も望君も大人なんだから。察しないと。察そうよ。

忠道 いや、それ言うなら向こうも大人だから。タダじゃないなら具体的に言ってくれないと。

盾男

忠道 いやいやいや、商売じゃないんだから。

盾男 商売じゃないんでしょ？

忠道 商売じゃないよ。気持ち。

盾男 だから気持ち。

忠道 や、気持ちって、常套句だから！

盾男 常套句。

梨絵 決まり文句。お金ちようだいねっていう決まり文句。

盾男 、結構ゲスな(笑)

忠道 え聞いたことない？ お気持ちでって、

盾男 あるよそれは、あるある。

忠道 あるんでしょ？

盾男 あるよこんだけ生きてたら、普通に。でもさ、

忠道 だからその、商売っていうとアレだけど、分かりやすく考えたらそ

盾男 ういう言い方になっちゃうだけで・・・。お寺さんて、普段は檀家

からのお布施でやってて、今、檀家も減っちゃってるから、こうい

忠道 うお葬式の経上げとか戒名代とか貰わないとやってけない職種な

盾男 んだから、

忠道 だったら、辞めれば良いじゃない。

盾男 お寺？

忠道 お寺、お寺なくなれば、経上げる必要も戒名付ける必要もなくなっ

盾男 て、葬式で無駄に金掛かることなくなるよ？

忠道 んな、無駄なお金？

盾男 お坊さんも、金無い、稼がなきゃって煩惱から逃れられてウインウ

忠道 イン。

盾男 ・・・・。

忠道 どうかな？

盾男 ご先祖の、供養が・・・。

忠道 俺たちが毎年思い出す、じゃ駄目？

盾男 ……
 忠道 駄目かさすがに(笑)
 盾男 恥だよ、家の。
 忠道 は？
 広島 まあ、これからだって、お付き合いあるだろうしね。
 盾男 そうそう。これからが。
 忠道 寺と？
 盾男 あるでしょ。
 広島 今までだっであつたんだし。
 忠道 え何でこれから？
 広島 ？
 盾男 や、前沢家で次誰か死んだら、あのお寺に頼むんだから。
 忠道 ……
 望 え何で盾男さんそんな言うの？
 盾男 ん？
 望 何でそんな坊さんの肩持つの？
 盾男 別に、肩持つてるわけじゃないけど、
 望 出家したの？
 盾男 してないよ。
 望 、人それぞれ、信じるものがあるからさ。うん釈迦でも尊師でも大
 盾男 先生でも良いんだけど、
 望 そういうことじゃ、
 盾男 でも盾男さん、関係ないじゃんもう、うちと。
 望 ……
 忠道 、てかさ、本当は金包んだ方が良いなんて、知ってるからね？
 盾男 知ってるの？
 忠道 知ってるよ当たり前じゃん、大人だぜ？(笑)
 盾男 知ってるなら、

忠道 や知ってんだけど。…そういうの、もう、良いじゃん。
 盾男 は？
 忠道 もう、前沢の墓もどうなるか、前沢の家が続くのかだつて分かんないんだから。
 望 ？ そうなの？
 忠道 いや、そうでしょ？
 望 そうなの？
 忠道 だつてお前東京だし美咲埼玉で、俺だつてこつち帰ってきたつつても同居してないし、
 望 家建てちゃったもんね。
 忠道 うん。
 梨絵 ……
 広島 そうか直道さん一人だつたんだ家で。
 忠道 、まあ、やぶぐ近くに居るんですけどね？
 望 え何で一緒に住まなかつたの？
 忠道 ……(梨絵を見る)
 梨絵 ……生活音。
 忠道 ……
 梨絵 結構、神経質なの、なつたの？
 望 、昔平気だつたんだけどね…。
 忠道 ふうん。
 望 や、聞こえるのより、聞かれるのが、ね。
 梨絵 あー…。
 望 ……ごめんなさい。
 忠道 え？
 梨絵 いやいや。
 望 ……
 忠道 ……
 望 ……

間。

広島 あ！ そうだ、これ。(と、懐から祝儀袋を取り出す)

忠道 ん何？

広島 気持ち持ち、

忠道 え？

盾男 あ気持ち、

広島 、お祝い。結婚祝い。(と、忠道に渡そうとする)

忠道 あ、(と、祝儀袋を受け取る)

盾男 今日？

広島 いや、次いつ来るか、っていうかこの先会うかどうかもう分からんか

ら、

盾男 いや今じゃなくても、せめて帰りとか、

広島 (忠道に)ね。

忠道 あ、はあ。

広島 俺たちも、はとこつつつても、会うの三回目くらいだもんねえ。

忠道 まそうですねえ。

望 僕もつと会ってない？

広島 会ってても覚えてないだけ？

忠道 一緒にドラクエやったの覚えてます。

広島 スリーだっけ？

忠道 フォーかな？

望 一緒に？

広島 あフォーだわ。

忠道 キングレオ倒しました。

広島 ホイミン人間になって、

忠道 ライアン仲間になる、

広島

望 そうそうそうそう！

広島 え一人でやるもんじゃないのドラクエって。

忠道 ドラクエと一緒にやる、がポピュラーだった僕たち。

広島 あん時小五くらい？でしたっけ？ 小四？

忠道 俺が一個下なんだよね、忠道君の。

広島 え、

盾男 夏友やって貰ったんだよ確か。

忠道 あ、ああ、

広島 懐かしい！。

忠道 俺年上か・・・。

広島 そうだよ。三十七でしょ？

忠道 になる年です、

広島 でしょ？

忠道 だね。

広島 俺三十六だからもう。

忠道 一個下か！。

広島 うんー。まもう、関係ないけどねこの年になると。

忠道 、ね。

望 (梨絵を見て)・・・奥さん。

広島 ん、

梨絵 奥さん。

広島 あ、はい！。

梨絵 美人さんね。

望 ん？

広島 (笑)

忠道 あ、ハハ(笑)

広島 ン、あ、ごめんなさい、そういう意味じゃなく、あの、そういうん

忠道 じゃないのよ？全然。その、前の、前の奥さんよりって言う、その、前の奥さんバツタみたいな顔してたから、それよりはって言うバツタ。

忠道 忠道 あ、ごめんなさいそういう意味じゃなく、バツタとか言っでごめんなさい写真しか見てないんだけど、いやバツタはお父さんが言っただのよ？前の奥さんがって、お父さん写真見せてくれて、そしたら本当にバツタに似てたから！ 似てたからバツタに！！ だから、新しい奥さんが、バツタに似てなくて、本当に良かったよね！

忠道 忠道 忠道くん、再婚おめでとー！！

広島、祝福の拍手。

忠道 ……二年前だけどね。

広島 気持ち気持ち。ね。

梨絵 ……ありがとうございます。

忠道 (祝儀袋を見ながら)……今日じゃなくても……。

間。

広島 望くんは、まだなんだよね？

望 結婚？

広島 うん。

望 まだっすね。

広島 美咲ちゃんも。

望 はい。あお姉ちゃんは一回、上手く行き掛け？

忠道 一瞬ね。

望 たんですけどね。

忠道 一瞬ね。

望 上野で。

広島 あ、還暦旅行？

望 そうそう。

広島 そんな色々あったんだ。

望 色々あった(笑)

梨絵 ドラマチック。

望 あり過ぎた。

盾男 え美咲ちゃんは？

忠道 金降ろしに。

盾男 え？

忠道 銀行に。坊さんに払う分。

盾男 ああ、払うんだ？

忠道 しょうがないでしょ坊さん納得してくんなかったんだから。

盾男 あーだったら良かったそれなら良かった。

忠道 でも銀行行こうと思ったのに車幸子に貸しちゃってたから、だから、歩いて、

広島 あ、俺の香典じゃ足りず？

忠道 坊さんが…、

広島 中々の強欲坊主だね。

望 お姉ちゃん連れてきたおっさんも結構、

忠道 ああ、

望 ね。

望 何？

望 (頭が)つるっと、

広島 お坊さんだったの？

望 や、医者。

広島 医者！

忠道 獣の。
広島 獣、
望 獣の医者だった。
広島 医者、あ、獣医ね、

■二の五

二〇一一年、夏。

東京都内の老舗旅館。

望、忠道、志津(梨絵が演じる)がいる部屋に、美咲、薮崎讓治(幸子が演じる)が入ってくる。薮崎の手には、生ビールの大樽。もう一方の手には、一升瓶やワインが何本も入った大袋。

美咲 薮崎さん。
薮崎 こんにちは。
忠道 こ、んばんはー。

望、会釈。
薮崎、正座し、礼儀正しく、

薮崎 薮崎讓治と言います。よろしくお願ひします！

薮崎、下げた頭を上げると、笑顔。

望 え・・・、
美咲 紹介しようと思って、
望 誰に？
美咲 お父さん、とか、つか勝手に来てたんだけど、

薮崎 このご旅行、ご家族がお揃いと伺いましたもので、
美咲 来ないでって言ってたんだけど、
薮崎 ごめん我慢出来なくて。
美咲 あれお父さんは？まだお風呂？
忠道 消えた。
美咲 え？
望 どなた？
美咲 あ、薮崎さん
望 うん、や関係？
忠道 職場の方？
美咲 あ、院長先生、
忠道 ! それはそれは、
美咲 ま開業なんで医者私だけなんですけど。
望 医者、薮崎？
忠道 薮(笑) よく言われるんですけど、獣医なんで、ま、丁度いいかな
望 と(笑)
忠道 、何が？
美咲 妹がお世話になっておりますー、
忠道 いえいえそんなそんな、
美咲 院長先生。
忠道 院長先生でー、彼氏。
美咲 、僭越ながら。
忠道 僭越ながら。
美咲 四十二歳。
忠道 厄年。
美咲 妻子持ち。
忠道 中学生が二人。
美咲 ちゅうが、ふた、ささつ、さ妻子持ち？

蕨崎　でも別れます。

忠道　やでも、

蕨崎　そして結婚します！

忠道・望　はあ！？

美咲　四ヶ月なの。

望　へ？

蕨崎　授かってしまいました。・・・クハッ(満面の笑み)

望　？　何、が？

美咲　(下腹をさすって)命。

忠道・望　・・・。

志津、勢いよく倒れる。

望　祖母ちゃん！！

■二の六

二〇一八年、夏。

会津若松市斎場、待合室。

広島　あ、お祖母ちゃんいたんだ。

望　いたいた。

広島　志津ばんちゃ。

望　うん。

広島　え、それで、結婚したの？

望　しなかったから、今、ここにこうして、

美咲　、うん。

幸子　残念だったねえ。

美咲　や結果オーライ？

幸子　？

美咲　そもそも不倫だったし。結局向こう、別れなかったし。

幸子　あらー。

広島　直道さん言ってたのそれかー。

美咲　え？

広島　美咲にもワンチャンあったんだけど、って。

美咲　ハハハ。

広島　バージンロード、歩けず、って。

望　え子供は？

美咲　ん？

望　妊娠してるって。

美咲　いや、あれねえ・・・。

望　してなかったの？

美咲　、誤診。やっぱ人間の医者じゃないから。

望　あ、本当に蕨だったんだ・・・。

美咲　、そうねー。

間。

幸子　よし！　もう、飲もう！！

望　あそれ、

幸子　重い！

美咲　ありがとありがと。

幸子　買ってきた！　持ってきた！！

忠道　それ(ビール樽)は何？

幸子　樽生。

望　居酒屋とかにあるやつじゃん(笑)

幸子　樽生。

忠道 買えるの？

幸子 コネあるから。

望 上げえな。

幸子 あとこれ。

美咲 何？

幸子 日本酒。

美咲 あワインも。

幸子 うちにいっぱいあったから、ヨークで思い出して、そんで。

忠道 えわざわざ帰ったの？

幸子 うん。や、だって、わざわざお金使うのあほらしいじゃない。家に
たくさんあるのに。

忠道 あまあ、

幸子 ついでに、お父さんに餌やって、あ、ご飯あげて。

美咲 ああ、

幸子 んで酒持って、来た。ごめん美咲ちゃんガソリン代ちゃんと払うね。

美咲 え、良いよそんなの。

幸子 ううん払うよ。

忠道 え、良いの？お酒。

幸子 うんうち凄くお酒溜まってるから、

忠道 酒溜まってるの？

幸子 飲み切れないから、

忠道 え？

幸子 うん。日本酒だー焼酎だーウイスキーだーいっぱい貰うんだけど、
貰ってもさ、お父さん飲めなくなっちゃったし、私しか飲む人居な
いから、

美咲 え開いてんだけど片っ端から(桂が)。

幸子 そうそう大体夜飲もうと思ってるんだけどお父さんに何かあ
ったらアレだから落ち着いて飲めなくて大体一口ずつしか飲んで

美咲 なくて。

幸子 や、にしても、何でそういう、一瓶開けたらそれを飲み切るまでは、
出来ないんだよねーそれが。ちよつとずつ色々試したい派なの。

美咲 ああん。

望 一途じゃないんだね。

幸子 そんでこれ、(望に)そういう言い方しないで。

望 それ何？

幸子 これ、こないだ直道さんうちに来て、お父さんと一緒に飲み明かす
って言いながら一口飲んで寝ちゃって、ほら、奥さんに、梨絵ちゃ
ん、梨絵ちゃん？

梨絵 はい。

幸子 梨絵ちゃんに迎え頼んだじゃない、

梨絵 ああ、

幸子 ごめんこれそん時の残り。

梨絵 へー。

美咲 食べ物は？

幸子 あ、

美咲 イカとかカニ味噌

幸子 カニ味噌って売ってそうで売ってないのね、あ旬か旬じゃないか。

美咲 イカは？

幸子 イカはね、発注した。

美咲 発注？

望 イカを発注。

幸子 うん。イカとか唐揚げとかポテトとか、揚げ物のオードブル、と、
おにぎりとかサンドイッチ十人前、注文して、届けてもらおうように。
ここに？

美咲 そうそう。届けてくれるって。

幸子 え何で買ってこなかったの？

幸子 え？だって出来立てが良いでしょう？出来合いの買って来るより。
美咲 何時に届くの？
幸子 急ぐって。
美咲 何時に届くの？
幸子 、急ぐって。
美咲 ……

忠道、ビール樽を触っていたが、

忠道 えこれ、どうやって注ぐの？
幸子 知らない。
忠道 何か注ぐやつあるんじゃないの？
幸子 付いてなかった？
忠道 付いてないよ。
幸子 え、サーバーないと注げないでしょ、
忠道 うん。
幸子 どうすんの。
忠道 いや、
幸子 じゃ良いよ酒。酒にしよう。
盾男 あ、コップ借りて来ようか。
忠道 あ盾男さん、
盾男 人数分で良いのかな？
美咲 湯のみで良いんじゃない？
盾男 借りて来るよ。

と、盾男、出て行く。

望 何なんだろうあのやる気。

美咲 やる気？
望 うん。
忠道 (梨絵に小声で) え何で？
梨絵 ?
美咲 盾男さん？
望 うん。
美咲 ああ、点火スイッチも押してたしね。
望 うん。
忠道 (梨絵に小声で) 何で？
美咲 何でだろね。
梨絵 ん？
忠道 (梨絵に小声で) 何で行かないの？
梨絵 え？
忠道 働かないと。こういう時。
梨絵 ……

梨絵、無言で出て行く。
人々、若干気を使う。
忠道、その気遣いに気付き、苦笑。

幸子 (広島からの視線に気付き) ん？
広島 、こんちは。
幸子 どちら様？
広島 広島です。
幸子 どうもー。
忠道 北海道。
幸子 あー北海道の！
広島 ええ、

忠道 勝也さんの息子、
 幸子 あーそうかそうか龍郎さんの、じゃお孫さんだ、
 広島 そうそう、はとこー。
 幸子 はとこー。(自分は) さちこー。
 広島 、はとこー。
 幸子 うんー。飲も飲も。あコップがないのね。湯呑みで良いか良いね。
 美咲 良いよ良いよ。
 幸子 はいはいはい何飲まれますかー、(美咲に) あ私飲んで、
 美咲 良いよ良いよどうぞどうぞ。
 幸子 ありがたく。じゃ、お注ぎいただいても、(と、湯呑みを掲げる)
 美咲 はいはい。(と、一升瓶から日本酒を注いでいく)
 忠道 え今日良いの？
 幸子 ん？
 忠道 お父さん。
 幸子 ああうんさつき帰ったら隣のコちゃん帰ってたからお願ひして
 きた。
 忠道 え何て？
 幸子 ん？ 何かあったらよろしくーって。
 忠道 えそんな感じ？
 幸子 そんなもんそんなもん。何かある覚悟もしてるしね。
 忠道 あー。
 幸子 ていうかね、飲まないとやってられんのですわー！！
 忠道 、あ。
 幸子 献杯！

望 注ぎますよ。
 広島 ありがと。
 美咲 お兄ちゃんは？
 忠道 うん。(と、梨絵が去った方を気にしている)
 幸子 あーはいどうぞどうぞ。(と、忠道に注ぐ)

各々、注いで。

忠道 あごめんなさい。
 望 望君も。
 広島 すません、
 望 えあんたも飲むの？
 美咲 え駄目？
 望 いや良いけど。
 美咲 あ姉ちゃん飲みたい？
 望 良いよ飲みな。
 幸子 じゃあありがたく。
 望 揃った？ 揃った？
 幸子 揃った。
 望 よし、え？
 幸子 ん？
 美咲 美咲ちゃんも飲みなよ。
 幸子 や車だし。
 美咲 良いよ良いよ誰も捕まえないこんな日に
 幸子 いや捕まる捕まらないじゃなくて
 美咲 情状酌量だよ許されるよお父さん亡くなったんだから。
 幸子 許されるか！(笑)
 美咲 無礼講無礼講！

広島 じゃ俺も、貰うかな。

と、幸子、一人で飲み始める。

忠道 スイッチ入っちゃったな。

幸子 スイッチ？

美咲 点火？

忠道 アルコール。

幸子 美咲のスイッチどこにある？ (下ネタ)

美咲 やめなさい。

望 オッサンだな(笑)

広島 俺運転するよ？ (と言いながら、飲む)

美咲 飲みながら言う？

忠道 代行呼びや良いよ。

美咲 や、そういうんじゃないよ。飲むか！

幸子 はい！ はいはいはいい日本酒？ワイン？ウイスキー？

美咲 えーつとね、あ(湯呑の数が足りない)

幸子 盾？

美咲 盾男さんコップ持ってきてくれるって言ってたよね？

望 そうね。

忠道 梨絵も持ってくるって、

幸子 ううん良いよ良いよこれ使って、

と、幸子、自分が使っていた湯呑から酒を干し、美咲に渡す。

美咲 え？ 良いよ幸ちゃん使いなよ。

幸子 良いよ良いよ使って、私これで良いから。

と、幸子、手近の一升瓶を引き寄せる。

望 直で？

幸子 何か？

一同 (笑)

幸子 あい、じゃあじゃあじゃあ、喪主様、

忠道 あ、では、えー、本日はお日柄も良く、違うな(笑)

広島 え忠道君、

忠道 はい？

広島 献杯しようとしてる？

忠道 ん？

広島 献杯しようとしてる？

忠道 あ、えー、

広島 違うよまだ献杯じゃないよ。

幸子 え？

広島 献杯はこの後。

忠道 ああそうか。

広島 精進落としん時。誰かに頼んであるっしょ？

忠道 優叔父ちゃんに。

広島 うん、だからここはまだ、特に、何も。

美咲 さすが先輩！

広島 葬式の？

忠道 (笑)

幸子 あ、じゃあ、えー、

望 うん。

幸子 、はい、

美咲 ん、

忠道 やー

広島 あい、

など、あいまいな掛け声で呑み始める。

何故か、口を付けたらそのまま一気に飲み干さなければならぬ
らない雰囲気になり、皆、飲み干す。
幸子は、頑張る。周囲も喜ぶ。が、限界は訪れる。
幸子
ふー……。出来る限りの努力はしました。
広島
素晴らしい！！（拍手）

梨絵、入ってきて、座に付く。

望
あ、
美咲
ああお帰り、
梨絵
戻りましたー。
忠道
グラスは？
梨絵
……。
美咲
なかった？
梨絵
それが、
忠道
えその辺にないの？
梨絵
無い。
忠道
、と、
梨絵
……。
忠道
えじゃ
美咲
無いんだ、
幸子
無いんだね、
梨絵
今盾男さんが事務所に、行ってるんですけどあんま人居なくて。
幸子
あ人居ないもんね全然。
梨絵
はい。
望
焼くの大変なのかな。
広島
あ、なかなか燃えないとか？

望
くべる薪が足りない！ 薪だ！薪持ってこい！
炭火焼？
広島
自動でしょだったでしょスイッチ押したでしょ、
美咲
あ盾男さんが、
望
で小野屋さん？見付けたんで、掛け合ってくださいます。
梨絵
え、何で？
忠道
？
梨絵
いや、お前聞かないと。
忠道
……。
梨絵
そこは。

梨絵、忠道以外に笑顔を振りまいた後、出て行く。

忠道
……。
美咲
ふうー♪
忠道
何だよ。
美咲
尻に敷かれてんだ。
忠道
そういう言い方すんなや。
美咲
お尻の下にお敷かれになっておます。
忠道
その言い方じゃねえし敷かれてねえし。
美咲
だいぶ、重そうでおまんなあ、精神的に。
忠道
敷きもの無い床で何年遊ばれに？
美咲
だぶ、
望
なかなか良い敷物が見付からないのでおじやる。
美咲
へぬ。

広島、爆笑してしまう。

美咲 ……(幸子に)ね。

ゆっくりと美咲の方を向く幸子。

美咲 ?

幸子、ゆっくりと向き直る。

一同、苦笑。

幸子 もうね、四十越えるとね、言われなくなるね。なるよ？

美咲 あそう。

幸子 なるよ。あたしピタツと、一昨年からピタツと言われなくなったも

んね。

美咲 そうなんだ。

幸子 うん。ピタ―つと。

美咲 へえ。

望 言われるうちが花？

幸子 花々。だから、三年？ あと三年の我慢だよ、美咲ちゃん。

美咲 ? いやまだ六年あるから！(笑)

幸子 え？だって美咲ちゃんて、

美咲 三十四三十四、

幸子 うのーん。

望 何うのーんて

幸子 うのーん、お盛んなお年頃じゃなーい。

望 多感？

幸子 お、盛ん？

望 多感な年頃？

美咲 いや私が求めてないから別に、

幸子 何でよ求めなよー。

美咲 求めない。

幸子 何でー？

美咲 いやあ、ロクでもない結果しか見てないから(笑)

と、美咲、周囲を見回す。

望 あー。

美咲 近くに、理想の夫婦でも居ればねえ、求めるかもただどねー。

幸子 居ないの？

美咲 居ないでしょ、我が両親を見るまでもなく。

幸子 え、

美咲 お兄ちゃんだってペケイチだし、

忠道 うぬ。

美咲 優叔父ちゃんちだって、奥さん、兄弟の葬式よりマルチの友達優先

美咲 だし、

幸子 宍倉は？

美咲 あ宍倉良いよね、宍倉の伯父ちゃん伯母ちゃんの関係好き。

幸子 死んじやったけどね。

美咲 死んじやったけど。あと一人娘がこんなだけど(笑)

幸子 参ったな。

望 短命の家系なんだよね。

美咲 寿命がね。

望 結構六〇代で。

幸子 うち、オナ中の同級生と結婚して子供四人いるよ？

美咲 よに、

幸子 すご。

忠道 え何年目？

広島 結婚して？

忠道 そうそう。

広島 結婚、十四年目？ 十五年？

美咲 でも近くに居ないもん。

望 北海道じゃね。

忠道 えそれ、中学からずっと付き合ってるの？

広島 ずっと付き合ってる。

望 凄いな。

忠道 んで子供四人？

広島 四人。

忠道 へあー。

広島 昨日、五人目種付けしてきた(笑)

間。

広島 、なんつって、な！(笑)

幸子 えオナ中？

広島 オナ中。

幸子 それはオナ、オナ、オナ、オナ、オナ、

広島 同じ、同じ中学、

幸子 あオナオナニーじゃない。

広島 オナニーじゃないです。

幸子 オナニーじゃないね同じ中学の同級生ねオナニーじゃない、

広島 何すかオナニー中の同級生と結婚て(笑)

幸子 いや一瞬わかんなくなつて想像しちやつた。

広島 頭おかしいよ(笑)

幸子 おかしいね。

美咲 だいぶ溜まつてんね(笑)

幸子 溜まつてんのかな。

美咲 溜まつてるでしょ。

幸子 溜めてる自覚は無いけど溜まつてんだな。

美咲 求めてる。

幸子 求めてるー。直道さんにも言われちゃったもん。

忠道 えお父さん？

幸子 うん。あこれ(酒)持ってきてくれた日。

美咲 、何て？

幸子 あのねえ・・・、トイレから戻ってくるなり、

と、幸子、視線を移す。と、ふすまの方を見た。

優、ふすまを開けて入ってくる。

一同、優を見る。優が、過去の直道として何かを言ってくるんじやないかと期待している。

優 ?・・・何。

間。

望 あ叔父ちゃんだ。

忠道 お父さんじゃないわ。

優 何だよ。

忠道 何か言うかと思った。

美咲 そろそろかなって。

優 何がー。

美咲 や別に。

優 あ幸子お帰り。

幸子 ただいま。

優 ビールは？

忠道 そこ。

優 え？

広島 (匂いで気付き)え喫煙所あるんですか？

優 あ？うん。

広島 嘘じゃ一本、

優 便所の裏手。

広島 わあ、追いやられてんなー。ハエ並みの扱い。

優 ああ、こう、こう、(追い払われるもん)な。

広島 、行ってきまーす。ぶぶぶぶぶぶ。

広島、出て行く。

美咲 何て言われたの？

幸子 んー？

美咲 お父さんから。

幸子 あのねえ、

優 (ビール樽に)何これどうやって飲むの？

幸子 あ、

忠道 飲めないって。

優 何だよそれ。

幸子 文句あるなら飲まなくて結構ですよー。

優 あん？

忠道 缶ビールにすれば良かったね・・・。

幸子 あ？

忠道 あ、や別に、

幸子 じゃ自分で買いに行けばよかったじゃん。

忠道 、や・・・、坊さんに捕まってたし。

幸子 ・・・・。

望 叔父ちゃんワインにしたら？

優 あワインあんの？

幸子 あそれも直道さん持ってきたやつじゃないかな。

優 あほら、やっぱ好きだったんだ。

望 開いてるけど良いよね？

優 開いてる？

望 うん。(幸子に)ラップしてないよね？(笑)

幸子 してません！

忠道 あグラスないな。

望 北海道が使ってたのが、

優 湯呑み？

と、望、ワインを注ぎ始める。

優 綺麗なグラスないの？

忠道 ないっ。

優 ・・・・。

美咲 なんて言ってた？

幸子 ん？

美咲 お父さん。

優 、あのね。

美咲 何て言われたの？？

幸子 ・・・・。

美咲 ねえ

「卵子の数には限りがあるんだよ、月に一回、年に十二回。お金み

たいに貯めておけないんだよそれをお前は今まで何回捨ててき

た？」

美咲 ! ! . . . そんなこと言ったの？お父さん。
幸子 うん。
美咲 ひどくない！？
幸子 親戚じゃなかったら、グーで殴っている。
美咲 それは、我が父ながらちよつと、ひどいな。
忠道 ごめん。
幸子 何で忠道くん謝るの！。
忠道 いや、
幸子 いや、でも、ほんとだから。そこはほんとの話だから、それは。
忠道 だったら余計に、
幸子 だから殴りたくなるんだから。人は、本当のことを言われると殴り
望 ほんとな。
美咲 ほん？
幸子 いやー、響きました。響きましたよね心に。堪えましたよね身体に。
美咲 んんんん。え言い返さなかったの？
幸子 言い返しても、事実だし。
望 ね。
美咲 ああ . . .
優 (ワインが) 渋いな。
幸子 . . .
優 酸化しちやっつてんだなもう。
幸子 . . .
優 劣化。ん？
幸子 ううん。
優 ああ、ワインだよ？幸子じゃねえよワインだよ？
幸子 分かってる分かってる大丈夫。
優 . . .

幸子 大丈夫だから . . . (切なげ)
優 . . . あ、盾男くん、
美咲 ん？
優 あの、人、独り身だった、んじゃなかったかな。
幸子 え？
優 なあ？
美咲 や、聞いてない。
優 あれ？
忠道 結婚したとも聞いてない。
優 誰も良く知らないのか。
美咲・忠道 知らない。
優 そうか . . .
幸子 ?
優 五十、代？
美咲 あ、
優 だよな、まだ。
美咲 かな。
優 六十なってないだろあの感じだと。
美咲 かもね。
優 (忠道に) いくつなの？
忠道 いくつーだろうね。
優 知らない。
忠道 六十になってないくらいじゃない？
優 だよな。
忠道 五十代？

一同、幸子を見る。

優 うん。
 幸子 えそれはさーそれはさー。
 優 ん？
 幸子 、何？
 忠道 、何？
 幸子 うん。
 忠道 何、
 幸子 うん。
 忠道 何って言われると、
 優 、何だろね。
 幸子 情報？
 優 ん情報。
 幸子 あ情報。
 優 うん情報。
 幸子 何情報？
 優 盾男情報。
 幸子 盾男さん。
 優 ん、
 幸子 盾男さんと私を結ばれ、させよう、結ぼう、
 優・忠道 いやいやいやいや(笑)
 幸子 売れ残ったパンを抱き合わせてセール？
 望・美咲 (笑)
 幸子 (笑った人々に)何が面白い？
 間。
 幸子 悪くないんじゃない？
 美咲 え？

幸子 ・・・うん。
 忠道 盾男さん？
 幸子 だって、盾男さんって盾男さんって、あの盾男さんでしょ？
 忠道 ままあの、あの、うん。
 幸子 、へえ。
 美咲 ？ 満更でもなし？
 幸子 でもなし。
 人々 わー！(笑)
 忠道 怖い！
 幸子 怖いって何忠道！
 忠道 ハハハ。
 幸子 ややや、でもでもそんな、もし仮にお一人様だったとて、そんな、
 優 こんな親戚同士で、親戚同士じゃ、
 幸子 いや盾男くんは、伊賀家は繋がってないでしょ血、
 優 そうなの？
 美咲 直接は。
 優 そうだね！
 幸子 輝子さんが前沢家に嫁いだっただけで。
 優 そうか！
 幸子 大丈夫でしょ。
 優 大丈夫か！
 幸子 大丈夫だあ！
 優 えじゃあ、結婚したら、どうなる？ の？
 幸子 だから、幸子の、義理の叔母、の弟と、夫婦。
 美咲 複雑だな。
 忠道 え、母の弟と従姉が結婚したら、何？になる？ん？
 優 あれダメか？三親等か？
 忠道 うん。

優 義理の叔母の弟って、姻族だろ？血繋がってないから。だと、何親等？ 姻族何親等？

誰も答えられない。

優 、誰も知らない。

美咲 (笑)

優 盾男君で、何なんだろうな(笑)

間。

望 僕も一回、殴ろうとしたことある。

優 盾男くん？

望 親父。

優 ああ。

忠道 いつ。

望 あ盾男さんはさつき。

優 え？

幸子 何で？

望 ままそこは、

間。

美咲 バンド辞める。

幸子 あー。

望 ……。

美咲 だ。

望 いやいやいや、

優 え望お前、バンドなんてやってたの？

望 やって、た、る。

美咲 バンドなんてって、

望 やってるやってる。

優 どのなのやってんの。

忠道 おじちゃん良いから。

優 いや良いじゃん、親戚に一人くらい、そういう、な？芸能関係の人

望 が一人くらい居るって、

優 いや芸能じゃないから。

望 えどんな音楽やってんの。

優 や、

望 叔父さんも昔、音楽好きだったからね。詳しいよ。

優 あ、ハハ。

望 えどんな音楽。

幸子 あのー、ね、

望 あたし一回ライブ？行ったけどね、

幸子 あ、

望 結構、良かったよ？

幸子 幸子おばちゃん、

望 ねえ？ 愛とか恋とか、

幸子 あれは別に、

望 良い、音楽だったよ？

優 どのなジャンル？

幸子 ジャンル？

優 うん。

幸子 、音楽。

優 だから、その、Jポップとか演歌とか、歌謡曲とか、歌。

幸子 ああ。
 美咲 大変だねえじゃじゃ馬ならしも。
 優 いくつになったの？
 美咲 奥さん？
 望 三、三十一。
 美咲 ああ、
 優 バンドは。
 望 え？
 優 そのバンドは、何年やってんの。
 望 九、九年。十年目？
 優 ファミリー、
 望 あでもファミコンになってからは四年目。
 優 で、そのファミコンで、稼いで？
 美咲 、ないよね。
 優 、じゃ、
 望 その、お恥ずかしい話になるんだけど、アルバイトとかしながら、
 優 週末とか夜とかに、
 望 三十一で、バイトしてんの？
 優 ま、そうー、
 望 ま、・・・大変、な世界、だねえ。
 優 ・・・・やっぱりその、今、売れてるのは、商業的な、お金を儲ける
 望 ために作られてるような音楽ばかりだから。一人一人に伝わるよう
 望 に作られてる音楽だから。
 優 、おう。
 望 ファミコンは、ファミコンの楽曲は、一人一人に伝わらなくていいか
 望 なんて。一人のうちの一人に伝われば良いかなって。
 優 ・・・・
 望 まちよつと、普通の人には伝わらないかもしれないんだけど、

優 普通の人って何だよ。
 望 あ、その、一般の。うん。
 美咲 ファミコンって略しちゃう時点でだいぶ一般的になっちゃってる
 望 気がするんだけどそこは気にしなくて良いの？
 望 そこアンビバレント。
 美咲 A a s h a s 。
 優 えどんくらいファンいるの？
 望 ファン？
 優 うん。
 望 あー、
 幸子 あたしファンファン大ファン！
 望 あ、
 幸子 うんー。
 美咲 私ファンじゃないけど一応たまに行くよ？近い時は。
 優 純粋なお客さんは？
 望 ・・・・じゅ、にじゅ、三、五十ひやく百人、くらい・・・
 望 十年やって百人。
 望 毎年一〇人ずつくらい、増えてるんで、
 望 それ一人一人にするなら、・・・千年か・・・。
 優 ・・・・、千年か・・・。
 望 ねえ。
 望 ハハハ。
 望 、え、今、歌える？
 望 は？
 望 一曲。
 望 ！ いやいやいや、
 望 凄く、良いのよ？ 何て言うか、何とも言えず。
 望 いや歌うとかじゃないから、

幸子 歌ったら分かって貰えるんじゃない？
優 うん。
幸子 愛とか恋とか、
望 いやいやいやいや。
優 ワンツースリーフォツ。
望 、あ歌うところ？今の、
優 ワンツースリー
優・幸子 フォツ。
望 あ、あー……。えー。

望、何か歌い出した、とたん、

美咲 お父さんは。
望 あっ、
幸子 ああん（聞けなかった残念）
美咲 ライブ。
望 あー、
美咲 来てくれたこと、
望 なかったなかつた。
美咲 あーそう結局。
望 なんかCD持ってくんのも、アレだったし、
美咲 自主だもんね。
望 うんレーベルとかじゃないからインディーですらないから。
美咲 え言われなかつた？ 何も。
望 お父さん？
美咲 うん。音楽のこと、
望 、あー……。、

■二の七

二〇一一年、夏。
東京都内の老舗旅館。
直道（鶴が演じる）が、風呂上がりでいい気分なのか、「矢切の渡し」の鼻歌交じりで入ってくる。
望と直道二人きり。

望 ご機嫌だね。
直道 うん？
望 お父さんあのさ、
直道 どうだ、バンドは。
望 あ、ん？
直道 ん？
望 うん……。。
直道 まあ、精々頑張れ。

■二の八

二〇一八年。
会津若松市斎場、待合室。

望 という。
優 それも旅館で？
美咲 何も言われてないに等しいな（笑）
望 うん。
美咲 でもね、手帳に、書いてたよ？
望 え？
美咲 望のライブの日。
望 そうなんだ……。。

美咲 うん。見てない？遺品。

望 え見てない。

美咲 あそこか間に合わなかったもんね。

望 あうん、

優 何望間に合わなかったの？

望 はい。え棺桶入れてないよね？

美咲 入れてない。帰ったら見な。

望 うん。

美咲 ホームページチェックしてみたよ？

望 ・・・そう。

幸子 うちでもね、

美咲 あ何か言ってた？

幸子 うん。いつのど自慢に出るんだろなー、あ、紅白、紅白に出るんだ

望 ろうなーって。

望 ・・・そう。

鶴、悪そうな顔をしている。

優 何。

鶴 (笑) 凄いよ。

美咲 、何？

鶴、顎で、襖の外を示す。

美咲 え？

幸子 、盾男さん？

鶴 へ？

幸子 ああ、

鶴 いや、新しい奥さん。

美咲 あー。

幸子 梨絵ちゃん、梨絵ちゃん？

美咲 そうそう。

鶴 大丈夫？

美咲 え何始まった？

鶴 、凄いね(笑)

美咲 ああ、

幸子 え何が？

鶴 声。

幸子 うるさいの？

鶴 大きい！

幸子 え？

鶴 私も人のこと言えないけど、あれは凄いわ。あでもここまで来ると

望 だいぶ静かね。

望 喧嘩？

鶴 喧嘩だわ。

望 夫婦喧嘩？

鶴 夫婦喧嘩夫婦喧嘩。

望 あー・・・。

鶴 内容が内容だから、もう(笑)

幸子 え何？内容って、

鶴 ええ？それは、

美咲 うん。

鶴 聞いてきたら？まだやってると思うから。

美咲 良いよ。

鶴 そう？

美咲 うん。

望 え、
 美咲 そうそう。
 幸子 何なに？
 美咲 今日くらい、抑えらんないかな。
 優 ああ、なあ。
 幸子 何を？
 美咲 うん。
 幸子 性欲？
 美咲 ん？
 鶴 そうそう。
 美咲・優 ん？
 幸子 性欲？
 鶴 性欲の話。
 幸子 え性欲の話してんの？
 鶴 性欲の話。
 幸子 えっ……。
 鶴 や、タバコ場で、梨絵さんと一緒になったからちよつと振ってみたの。
 幸子 なになにな何を？
 美咲 あ辞めてないんだ(梨絵はタバコ)
 鶴 うんバカスカ。二年目だつて言うからさ、
 幸子 あ結婚してね。
 鶴 うんー。
 幸子 ああ。
 鶴 じゃそろそろ、そろそろ？(お腹に子供？)って、ま軽くだよ？ サ
 ラツと。そしたら、もう、劍幕が凄い。食い付きが(笑) イカでカ
 ニを吊ったような(笑) そしたら北海道の、
 幸子 海老で鯛？

鶴 海老で鯛？ ほら、北海道のあの、北海道来ちゃったでしょ？ あ
 の人んちも子だくさんだからまた、食い付きが(笑)
 望 ああー……。
 鶴 北海道も北海道で余計な入れ知恵いっぱいするから火に油？ も
 う、ちよつとね、聞くに堪えなくておいとましちやった(笑)
 美咲 はははは。
 優 人の家の夜の話に首突っ込むな。
 鶴 だから置いてきたんでしょ？
 優 ……。
 幸子 えどんな話？
 鶴 タバコふかーってして、「あたしは、セックスがしたいんじゃない
 の！ 子供が欲しいだけなの！」
 幸子 わ。
 鶴 「そんなに喘ぎ声がうるさいなら小さくしますから！ お願い！」
 タバコふかー。
 幸子 わー……。
 鶴 火葬場で実の父焼きながらする話？(笑)
 美咲 え、面白おかしく報告する話？
 鶴 え？ あ、あそうか声でかいから建てたんだ家！！ 謎解き！！
 望 ん？
 鶴 生活音……。
 望 ん？
 鶴 ん？
 優 その、そういう話は、お前、胸にしまっておくもんだろう。
 鶴 えだつて実際言ってたんだよ？北海道も聞いてたよ？
 優 ……。

鶴 え？

優 悪いな。

美咲 ううん、

鶴 え何でー？ 何で私が悪い？

優 悪いだろ。

美咲 大丈夫叔父ちゃん。

鶴 えー？

優 悪い。一人っこだから分かんねえんだよな？そういうのお前は。

鶴 そうですね。

優 ……

鶴 、欲しかったなー兄妹。

間。

鶴 良いなー前沢家は。

望 (苦笑)

美咲 は??

鶴 ん？

■二の九

二〇一一年、夏。

東京都内の老舗旅館。

美咲、直道(忠道が演じる)、望、亜希子(梨絵が演じる)が

いる。

直道、亜希子、手を繋いでいる。

美咲

え、これ、お父さんのための旅行だよ！？ なのに、何でそんな、何やってんの！？

直道、亜希子、慌てて手を離す。

美咲 てか誰？ その女！ そのお母さんじゃない、お母さんとは似ても

似つかない誰か、は誰！？

、昔付き合ってたの、そんだけ。んで偶然再会したの。

！？ いつ？

別ん良いだろいつでも。

、浮気？

……、そうだよ！

え、お母さん出ってた後？前？

、前！

！？

あーもう。あー。

最っ低。え？ で……、この人、独身らしいじゃないですか。独

身なのに、子持ちらしいじゃないですか。ね？

……、それは、

ねえ。

お前、お前だって、墓場まで持って行きたい秘密の一つや二つ、あ

るだろう。

無い。

……あそう。

、良いですよもう。

……、言わせんのかよこれ……。

何？

お姉ちゃん、

はつきりしないとでしょ！？ こういうのは！

望

美咲 良いじゃんもう、

美咲 はあ！？良くないでしょ！？ 兄妹が居たんだよ？まだ見ぬ！

亜希子 、別れた夫の子です。

美咲 ん？

亜希子 写真見ます？前沢さんと似ても似つきませんよ？

美咲 でもでも、私、その子作られた瞬間見てないし！

亜希子 は？

美咲 ほんとに別れた旦那さんと、ほんとにそういうことしたのか、

直道 美咲？ 美咲？

美咲 ん？

直道 大丈夫か？

美咲 大丈夫じゃない。

直道 大丈夫じゃないなだいぶ。

亜希子 私が言いましたよ？

美咲 あなたは黙ってて下さい！ これは家族の問題なんです。

直道 ……

直道 だーあのー、何だ、どっから話せば良いんだ、つまりーだな、要するに……、たまたまなんだよ。たまたま。

亜希子 ……

直道 お母さんだって、そうだったんだよ。

望 たまたま？

直道 たまたま。別に俺じゃなくても良かったんだ、多分な。たまたまなんだよ。

美咲・望 ……

直道 この人だってそうだよ、きっと。

亜希子 え？

直道 そうだろ？ バブル弾けて、公務員だっつうだけでステータスだったんだよそういう時代だったんだよ。

亜希子 そんな、

直道 俺公務員じゃなきゃ、寄ってこなかったんしよ？

亜希子 そんなことは……、

直道 あるよ。

間。

亜希子 ……、私遊ばれたんですよ、この人に。

一同 ！？

亜希子 火遊びだった、それだけで良いじゃないですか。

直道 いやだから、

亜希子 部下でした。不倫でした。孕ませちゃったからクビにしました。それで良いじゃないですか。

美咲 ええ……！

直道 それじゃ……、

亜希子 え足りない？ 部下で不倫でセックスだけの関係でした。都合の良い関係でした。相性も良い関係でした最高に。でも孕ませちゃったから随ろさせてクビにしました。以上？

直道 ……

直道 万一結婚出来てたって、上手くなんか行きませんでしたよ絶対。しようって言うてくれましたけど。

亜希子 ……

一同 ……

直道 ……

亜希子 ……大体、誰でもやってるでしょ？ 浮気や不倫の一つや二つ。

今時。

美咲 ……

！ ……

押し入れから、たくさん紙コップを持った盾男が現れ、

盾男 やめようよー！！

一同、不思議がる。

■二十の十 二〇一八年、夏。

会津若松市斎場、待合室。

美咲、忠道、望、梨絵、優、鶴、幸子、盾男がいる。

盾男、紙コップを配り置いていく。

盾男 嫌い、こういうの。

美咲 盾男、さん？

梨絵 あコップ、

望 何？

盾男 故人に失礼だよ、嫌だよ！

鶴 え楽しく喋ってたのに。

盾男 そんな、死んだ人を冒流するような話は要らない！！

望 いや冒流はしてないけど、

忠道 うん実際に、

美咲 うんあの旅行で本当に、

望 ねえ？

忠道・美咲 うん。

盾男 いや、お葬式っていうのはね？ 故人の思い出を語らう機会ではあ

るけれど、悪口とか、悪事を、そういうのを、死んでから知らない

人たちの前で明かす必要はないでしょう。胸にしまっておこう

よ！！

幸子 本当に、良い人なんだね・・・。

盾男 え？

美咲 あ、

幸子 うん。

盾男 ？ 何？

幸子 ううん。うふ。

盾男 ？

梨絵 あコップ、ありがとうございます。

盾男 ？ いえいえ。

望 までも浮気は浮気だからねえ。

盾男 いや、だからそういうことはさ、

忠道 えでもお父さん、再婚はしなかったよね。

美咲 籍抜いてなかったからね。

盾男 うん。

望 そんなそんな時、母は、押し入れに居た、と。

美咲 最悪でしょ？(笑)

優 たぶん、その人だな。ワイン。

美咲 え？

優 その、何さん？

美咲 亜希子さん？ だっけ、

優 その人。と知り合った時に、覚えたんだな。时期的に。うん、そう

だわ。

美咲 あー。

忠道 んで亜希子さんと別れて、ていうかお母さん出てって、何責任感じ

たのかわかんないけど、ワイン飲まなくなった。

優 と、見たよ。

美咲 おー。

優 ま想像だけだな。

忠道 ー。

望 何してんだらうねー。あの人。

忠道 誰？
 望 亜希子？
 忠道 ああ。
 美咲 知らせたの？
 忠道 知らせるわけないっしょ(笑) てか連絡先も知らないよ。
 美咲 あそう。
 望 何してんだろうなー・・・。
 広島、入ってくる。
 間。
 広島 デジャブ？
 優 あ、
 忠道 あ、
 広島 あ、仲直りした？
 梨絵 あ、
 望 北海道か。北海道だ。
 広島 え？
 鶴 え続きは？
 望 旅行の？
 盾男 だからさー！
 鶴 子作り先生。
 広島 ん？
 美咲 待って盾男さん、
 盾男 ん？
 美咲 ・・・そんな、しきたり守りたいならさー、
 盾男 ん？

美咲 何でスイッチ押した？
 盾男 え？
 優 ああ、
 忠道 あそうだよ
 美咲 ねえ？
 望 うん。
 幸子 ああ。
 梨絵 あ押してた。
 盾男 え？
 広島 え何のスイッチ？
 鶴 叔父さん燃やすスイッチ。
 広島 ああ。
 盾男 ？ えダメだった？
 美咲 駄目だったって言うか・・・。
 忠道 うん。
 望 何で？
 盾男 ？ 誰も、押さないから・・・。
 美咲 えだっただって普通、喪主か、故人と関係の深い人が、
 盾男 うん。
 美咲 だから普通、普通は、
 美咲 家族が押すものでしょう？
 盾男 、そう！
 美咲 家族。
 間。
 盾男 え？
 幸子 うん。

盾男 いやいや、家族、家族。

美咲 あー……、

望 うん、(笑)

忠道 、や、押せなかつた俺たちも俺たちなんで、そこは、その、

望 うん。

鶴 お父さんも無理だったもんね。

優 俺無理だったわ。

鶴 ね(笑)

優 殺、無理だった。

忠道 でも、うん。ねえ？

美咲 うん。

盾男 あー……。

幸子 そんな、みんなして盾男さんを責めることないじゃない。

盾男 あ、ん？

幸子 うん。ねえ？

盾男 あ、ありがとう。何急に？

幸子 ううん別に？

盾男 ああ。

間。

盾男 でも、僕も、義理だけど兄なので。

望 やでも、

盾男 最後の家族だから。

一同 ？

盾男 あ、や、もちろん、みんな、この、みんな、家族だと思ってるけど、

忠道 でもその、伊賀家はもう、誰も居ないから。

忠道 あ、あー……。

望 え、お母さんって……、

盾男 ……。

望 ! え？

盾男 ……。

望 え嘘、伊賀家に、

盾男 戻ってない。

美咲 じゃ、今も佐渡？

盾男 かも、分からない。

美咲 え？

盾男 分からない。分からなく、なっちゃったの。

望 え……。

盾男 俺も、もう、連絡ついてない。

忠道 忠道くんも。

忠道 はい。

盾男 そうか……。電話番号知ってるから平気だと思ってたんだけどね。

忠道 迂闊でした。

盾男 ね。何も、繋がってなかった。

忠道 はい。

望 ……え、その、

盾男 ん？

望 それそれは、本当の本当に、失踪。

美咲 失踪。

盾男 生きてるか、死んでるか、

美咲 不明。

美咲 ……。

盾男 一応、お義兄さんには、報告は、うん。

忠道 籍残ってたからね。

盾男 うん。失踪宣告の手続きは、うん。

望、わー！！

一同

？

望 両親同時に失ったデー！！

間。

盾男 だからもう、僕、家族、ここにしか居ないんだよね……。

優 ……最後の家族、つてことは、

盾男 はい？

優 盾男くん、奥さんは、

盾男 独身です。

幸子 ？？

優 お？？ 幸子。

広島 え？

盾男 ん？

優 幸子、ほら、

幸子 いやいやいやこんな時に、

優 タイミングだよタイミングこういうのは、

幸子 そんなそんな盾男さんにも盾男さんの性癖が生活があるから、

盾男 性癖？

幸子 盾男さん一人で決められることじゃないし、

優 そうだよ盾男くんと幸子で決めたら良いんだよ。

盾男 え何ですか？

優 、どうかな。

盾男 はい？

優 幸子を、嫁に、する、という、

盾男 結婚！？

優 どう。

盾男 あ、あー……。

幸子 ……(照れている)。

盾男 (幸子をじっと見つめて)……幸子さん。

幸子 ……はい。

盾男 ……ごめんなさい。

幸子 ……、ですよね……。

盾男 あ、……いやそのー、

幸子 あ何か……、ごめんなさい、私が勝手に、一人で何か盛り上がっ

ちやって、いや盛り上がってっていうか興奮しちゃって想像しちや

ってつい、やでもそれは私の勝手なアレだからほんと盾男さんは悪

くないんで何も、はい、その、大丈夫です。駄目なのは私なので、

うん、大丈夫です。

盾男 違う違うそうじゃ、そうじゃない、

幸子 何ですか！！

盾男 駄目なんです、僕。

幸子 私じゃ……、

盾男 あなたが、じゃない。あなたは、とても魅力的な女性ですだと思

います。

幸子 だったら！！

一同 でも！！ 僕が……、僕が……、駄目なんです、女性が。

！！！？

幸子 あ……。あ女性が、

盾男 ごめんなさい。

幸子 、ああくん。

盾男 せっかく、美人さんなのに、(誰かに)ねえ？

幸子 (苦笑)

盾男 ……や、ごめんなさい……。

幸子 何で？

沈黙。

誰も、何も言わない。

誰かが音を立てると、そちらに視線が集まってしまいが、音を立てた本人が首を振ったり、気付かなかつたり。ただ、人が焼けるのを待つ時間が少し、流れている。

梨絵、飲み、ます？

望、んあ、

優、そうな。

幸子、飲む。

梨絵、ねえ、

忠道、ビール飲みたい。

美咲、私お水欲しい。

幸子、命の水を。

鶴、氷ないの？

美咲、あるか。

忠道、ビール買って来るか。

忠道、最期どうだったの？

忠道、ん？

忠道、最期。直道さん。

間。

広島、あごめんなさいもう散々みんな聞いてるか、ごめんなさい。

一同、・・・。

忠道、俺が遅刻しちゃったからいけないんだよね、ごめんごめん、いやいや、来てもらえただけで、もう。

広島、どうだったの？

忠道、・・・。

広島、死に際。

梨絵、あつけなかったですよ。

忠道、あそう。

梨絵、ええ。

忠道、うん。

広島、・・・穏やかだった？

忠道、あー、まあ、まあ。

広島、穏やかだった。

忠道、まあ。

美咲、でも、急だったもんねえ。

美咲、まあ、いつそうなってもって感じではあつたらしく。

美咲、あそうだったんだ。

忠道、肝臓は常に数字最悪だったんで。

美咲、ああ、酒。

忠道、酒。

美咲、肝臓。

忠道、あちゃー。

忠道、肝炎？ 急にきて、

梨絵、飲む人だったもんねえ。

梨絵、年取っても減らさなかったからね。

忠道、ええ、だからまあ、ぼっくり、です。

忠道、あー・・・。

忠道、ぼっくりっていうか(笑)

忠道、でも、事故だ事件だ災害だーじゃなくて良かったね。

忠道、んまあ。

広島 ねえ。笑えないからね、そういう場合。
忠道 、まどうあれ笑えないけどね。
広島 ……、ね。

間。

広島 会えたの？みんな。
忠道 死に目？
広島 うん。
望 僕だけ間に合いませんでした。
広島 あーそう。
望 ええ。
広島 親不孝！
望 ？
広島 はははは。
望 ……。
美咲 ……ま倒れて昏睡してそのままだったんで。会ったっていうか、喋れてないし、会ってないみたいなんだから、まあ、一緒ですよ。
広島 ああ。
美咲 それまで普通に元気だった、んでしょ？
梨絵 ええ。
忠道 ほんと普通に、酒。酒で急に。
幸子 でも足痛いって言ってたていうのは、まあ、そういうことだったんだらうねえ。普段だったら自分で運転するのに、最近迎え呼んでばかりだったもんね。
忠道 あそ倉行った時もね。
梨絵 ごめんなさいなかなかタイミング合わなくて、
幸子 ううん全然、全然、そこは。

広島 それで、歩くのゆったりだったんだ。
忠道 え？
広島 いや去年、北海道来てくれた時？
忠道 ああ。
広島 (周りに) あ、うちも親父が逝きまして。
優 ああ、勝也くんも逝っちゃったんだよな、ええ。
広島 結構、早かったんじゃない？
優 親父ですか？
広島 うん。
優 まそうですね、でも七十行ってましたからねああ見えて。
優 ああ見えて、はい。
優 ごめん最近全然北海道会ってなかったから、ああ…。
優 ごめんごめん。
広島 あそつか会ったことある人いねえんだほとんどな。
忠道・美咲・望 ……ごめんなさい。
広島 いやいや。いやいや。

間。

広島 まこうやってだんだん、だんだん、親戚が親戚じゃなくなっていくんだよねえ…。
鶴 東京だと叔父伯母の葬式も行かなかったりするからね。
鶴 え兄弟が？
広島 いや兄弟は行くけどささすがに。甥っ子姪っ子は来ないよ。
広島 ああ…。

鶴 ね。うちの晋一くんちなんか、向こうの両親と結婚式の時以来会ってないでしょお父さん。

優 そうな。

鶴 晋二くんも晋三くんも、あ晋一くんの弟ね？ 弟たちとか、うち来たことないもんね？

優 ないな。

鶴 ま私も興味ないけどあいつら。

優 んー。

広島 うちも、これたぶん最後になりますからね。

忠道 え？

広島 でしょ。

忠道 んま、

広島 ねえ。

美咲 、普通、そういうこと言わないんじゃない、

広島 言わない。

美咲 え、

広島 から、そういう風に大事なこと言わないで、ふわっと接点なくなっていくのが嫌で。それで、だから逆に？ちゃんと見つこうかなって。

美咲 あー。

広島 だから、言いました、今。ふー、これで心置きなく帰れる！

忠道 いや骨上げ、

広島 あ、

忠道 骨拾ってつてよ(笑)

広島 そうだそうだねそれやんないと何しにきたんだってね(笑)

忠道 うん。

広島 香典坊さんに渡しに來ただけ(笑)

忠道 ただでさえ告別式出てないんだから。

広島 わーごめんさい。

優 小和田も、俺で最後だしな。

忠道 え？

優 だってそうだろ。鶴、嫁に行っちゃったんだもん。

忠道 ああ、

優 俺の代で、終わりだよ。婿取んなかったんだから。

鶴 えダメだった？

優 いや？

鶴 売れ残るより良くない？

美咲・幸子 ……。

美咲 売れ残るってその、

鶴 うんー？

美咲 その、そのさー、売れるとか売れないとか嫁ぐとか継ぐとかさーその、そういう考え方、要らない。

鶴 えでも、

美咲 女は子供を産めとか、要らない。

鶴 でも、子供は女しか産めないよ？

美咲 それはそうだけどさ、でも、んー…。

優 やまあ、兄貴も、見たかっただろうとは思うよ？

望 孫の顔？

優 そうそう。本心ではね？

忠道・梨絵・美咲・幸子 ……。

優 口に出さなかっただけで、本心では。

鶴 お父さん、

優 ん？

鶴 それ来る前にお父さん前沢タブーって自分で。

優 あそうだ。タブーだった。

間。

優 (お酒を)お替わり。まだ入ってる。(笑)

間。

梨絵 作らない、わけじゃないんですけどねー。

優 おー！

忠道 ・・・。

梨絵 ま作ろう、とはしてます。

優 うんうん。良いじゃん。

忠道 ・・・。

梨絵 だからすぐ何も言わなくなるじゃん。

忠道 ええ？

梨絵 何で？

忠道 今やめようよ。

梨絵 何で？さつきも話したじゃん。

忠道、みんなに笑顔を振りまく。

梨絵 あのー、子供は、欲しいんですけどー。

忠道 梨絵。

梨絵 レスってー。

一同 ！！

幸子 レスってというのは

梨絵 セックスレスー。

幸子 あ、

梨絵 レスレスー。

幸子 ああーん・・・。

忠道 や、

梨絵 あの、二人だと、ちゃんと、話せなくてー。

忠道 話すじゃん！

梨絵 話さないじゃん私だけが喋ってるじゃん私だけが興奮して私だけが作りたいみたいになってるじゃん！！

忠道 ・・・。

梨絵 (周囲に)ほらー！

忠道 ちがだつて、

梨絵 何！？

忠道 ・・・その、

梨絵 何！？

忠道 ・・・。

梨絵 、何？

忠道 良いよもうやめよう。

梨絵 え何で！？ 何で！？

忠道 、愛してはいるから。

梨絵 、愛を感じられません！！

忠道 なんだっ、

盾男 みんな出ましょうか。

優 そだね、

梨絵 、居て！

盾男 ・・・。

梨絵 居て！

一同 ？

間。

幸子 相手がいるって、良いよねえ・・・。

鶴 ねえー。

幸子 、ねえ。

鶴 折角相手いるのにねえ。

美咲 相手がいても、ねえ。

幸子 こればかりはねえ。

美咲 難しいねえ。

幸子 難しいんだねえ。

鶴 難しいかねえ。

幸子 やっちゃえやっちゃえー。

梨絵 え飲んで良いですか？

廣島 飲んで飲んで飲んで、のん

梨絵 ありがとうございます。

梨絵、一升瓶をラツパするなど、豪快に飲む。

間。

梨絵 欲しいんです、子供。

忠道 はい。

梨絵 見せたかったし、お義父さんに。

間。

忠道 (美咲に)お前が産んでりや良かったんだよ、あん時。

望 ン？

忠道 藪医者の子供。

望 え？

梨絵 嘘、

美咲 ・・・・。

忠道 だろ？

美咲 ・・・・。

望 えあれ、誤診じゃ、

忠道 え？

美咲 ・・・・ほんとはねー、

望 うん。

美咲 居た。

望 え？

美咲 居たんだよね。

望 えええええええ、

美咲 でも・・・、居なくなっただよね。居た人が、居なくなっ

望 藪医者？

美咲 違う違う。ここに居た人。

望 ああ・・・。

美咲 そつから、何か、藪医者、居辛くなっちゃって。

望 あ病院？

美咲 そうそう。

梨絵 え、何で産まなかつたんですか？せつかく、

美咲 産む産まないじゃないんだよ、居なくなっただよ。

梨絵 ああ・・・。

望 ・・・・まそんで、何か、もう、良いかなって。色々。

美咲 ああ・・・。

望 うん。

間。

望、や、あの旅行ん時さ、もう、戻ろうと思つてたんだよね。実家、
忠道、そうなんだ。

望、うん、もう、音楽、音楽？（笑） シューゲイザー？（笑） みたいな
忠道、感じだったしさ。
、へー。

望、そんでお兄ちゃんもお姉ちゃんも、あー東京で暮らしてくんだろう
なーって匂い醸してたから、さ、だから、僕がつて、なのに、なの
に、何か、旅行終わつたら、兄ちゃん実家戻るとか言い出したじゃ
ん？

忠道、ああ。
望、あ、
忠道、それで、だよ。それで、戻るに戻れない、僕でしたよ。
望、・・・そう。

望、や、かと思つたら、何故か兄ちゃん家に戻らず新宅建てちゃつたと
いう、何なんなの？？
忠道、ああー。
望、うん。
望、あれはねー。

望、うん。
望、あれはねー。
望、うん。
望、家、持てつて言われたんだよね。
望、お父さんに？

望、お前長男だからつて家貰えると思うなよつて。
望、何それ。
望、この家は、望に遺すからつて。
望、分かんないや。

望、あれじゃない？ 獅子は千尋の谷に我が子を突き落す的な、
忠道、何で長男だけ？
美咲、分らない。

優、（俯いたまま、寝言のように）長男だからだよ。

優が、ぐったりしているように見える。

鶴、お父さん？

幸子、大丈夫？起きてる？

優、うん、

幸子、寝てる？

優、うん。

幸子、どっち？

鶴、目開いてる。

幸子、お腹減つた？

優、酒。

幸子、叔父ちゃん？

優、・・・。

鶴、お水飲む？

優、良い要らない酒。

鶴、お水にしようお水、

優、酒。いいちこ。

鶴、仕方なく、優に酒を注ぐ。

優、注がれた酒に目もくれない。

美咲、え家は？

忠道、ああ、

美咲、どうすんの？

忠道、ま、相談しよう。

盾男、僕、住もうか？

忠道、あ、

望 家？

盾男 うん。

美咲 あー、

盾男 僕、住んでも良いよ？

忠道 、相談しよう。

美咲 そうだね。

盾男 どうかな？

望 そこは、家にいてください。

盾男 え？

望 お母さん帰ってくるかもしれないから。

盾男 あ、

望 いつ帰ってくるか分からないんだから。

盾男 、そうか、

望 いて、あけて、くださいよ。

盾男 そうだね、ごめんね。

望 はい。

盾男 うん。

望 死んだ、わけじゃ、ない、んです、から。

盾男 ごめん。

望 、うん。

盾男 そうだね。

間。

優 違うよ。

一同 ？

優 違う。

■二の十一

二〇一八年、春。

前沢家。

直道(優が演じる)、優がいる。

直道 優。

優を演じる人間が決まっていなかったので、誰にする？という状況に。さまざまな人が演じてもいいとも思っている。

直道 優。

優 、ん、うん。

直道 優？

優 はい、

直道 お前優か？

優 うん優・・・何？ 兄貴。

直道 ・・・・俺はな、優。

優 うん。

直道 子育てに失敗したよ。

優 、そう。

直道 うん。

優 そうかな。

直道 大失敗だ。

優 でもみんなしつかりしてるし、

直道 ううんううん、

優 うちの鶴と比べたらだいふ、

直道 鶴ちゃんはちゃんと嫁行っただろうが。

優 行っただけど、親を親とも思っていないよ？

直道 それはどこの子もそうだろうようちもだよ。

優 あそう？

直道 うん。

優 あー。

直道 忠道は、結婚失敗して、また結婚したけど、まー、新しい嫁は、バツタには似てないからまだいいけど、愛想しかないし、迎え来ないし、それでも、ま、孫の顔は見せてくれんじやないかって、期待はできる。

優 そりゃよかったね。

直道 うんー。家もやったしな。

優 あれ何で？ 奮発したねまた。

直道 いや、お前、親と同居で、子作りに励めるか？

優 え俺結構普通に頑張ってたよ？

直道 小和田家で？

優 うんー。

直道 お前、凄いな。

優 そう？

直道 尊敬した。

優 (笑)

直道 んで、美咲は、美咲もだよ、ロクでもない男にしか引つ掛からない。

優 そういう運命なんだろうね。

直道 姪っ子の運命を定めるな。

優 あいごめんごめん。

直道 バージンロード、歩いてみたかったなー。

優 歩きたいの？

直道 歩きたい。

直道 ウエディングドレス見たいとかじゃなくて？

直道 歩きたい(笑)

優 別に大したもんじやないよ？すぐ終わるし。

直道 歩いたことないもん。

優 まあな。

直道 失敗しても良いから、一回やってみりや良いんだよな。

優 結婚？

直道 結婚でも、何でも。

優 いや、興味がないんじやないの？あいつは。

直道 興味がないんじやなくて度胸がないんだ。やってみる度胸が。

優 そんな感じしないけどな。

直道 昔っからそうなんだ、一回失敗するともう、そこばかり心配する。

優 あーそういうところあるかもなー臆病？

直道 お前姪っ子を臆病と罵るか。

優 違うの？

直道 望だよ。

優 あ望。

直道 、音楽っていうのは、良いな。

優 ん、

直道 良いよ。

優 、あそう。

直道 良いよ。何か、複雑なやつやってるとかやってないとか、ポップじやないとか万人受けはしたくないとか、何かわけわかんないこと言ってるけど、でもまあ、分かんないからな、ああいう世界は。

優 まあなー。

直道 続けてみないとな。

優 言うな。

直道 続けてみたら、ああ、これが我が道だったか、みたいなことらしいからな。才能も、あるから続けられるんじやなくて、続いたから、才能あったんだね、みたいなの？

優 何かどっかで聞いたことある感じだな。

直道 ま大体どっかで誰かが言ってるんだよ似たようなことを。

優 大体な。

直道 うん。だから、辞めなければ、何かにはなってくれと、まあ、思うんだ。俺は。続けるのは大変だし、辞めるのは簡単だけど、でも

辞めるのはいつでも辞められる。続けた先の景色は、続けてないと

見られない、からな。

優 またどっかで聞いたことある感じだな。

直道 ま大体どっかで誰かが言ってるんだよ似たようなことを。

優 大体な。

直道 そうだよ。そんなもんだよ。

優 大体な。

直道 。

間。

直道 なーんつつてな。

優 ？

直道 ・・・、ゼーんぶ、嘘。

優 ？

直道 あいつらがどんな人間かなんて、ゼーんぜん分からん。何考えてるかも、どうなるかも、ゼーんぜん、分かんねえよ。

直道、兄弟たちに話し掛ける。

直道 忠道。

忠道 はい。

直道 家なんか、孫なんかどうでも良いから、元気で居ろ。

忠道 ・・・。

直道 美咲。

美咲 はい。

直道 結婚なんかどうでも良いから、元気で居ろ。

美咲 ・・・。

直道 望。

望 はい。

直道 音楽なんかどうでも良いから、元気で居ろ。

望 ・・・。

直道 お前らが、いつでも帰って来られる家は、残せた。俺はそれで十分、働いた。十分、生きた。と思う。あとは、お前らが俺より先に死な

ないでくれれば、それで俺は十分だ。

まあ、人生、せいぜい頑張る。

望 ・・・。

追伸。お母さんがいつ帰ってきてきても良いように、家には誰かいてほしいです。

望 ・・・。

■二の十二

二〇一八年、夏。

会津若松市斎場。

沈黙。

忠道 何も、してやれなかったな・・・。

美咲 ・・・。

望 ・・・。

神保、ふすまを開ける。

広島 あ、

神保、頭を下げる。

鶴 終わりました？

神保 はい。

鶴 よし、じゃあ、

幸子 うん。拾おう。

広島 あい。

立ち上がらない人々。

美咲 ・・・・燃えなければ、良いのにな。

望 (笑)

忠道 ・・・・。

望 声、どんな声だっけ・・・？

美咲 あー

望 喋り方は？

美咲 歌は下手だった。

望 ねえ。

忠道 どんな感じだっけ。

望 あんま怒んなかったよね。

美咲 高くはないけど低くもない、

忠道 ー、

美咲 普通？

忠道 普通って(笑)

美咲 いや、お父さんの声、としか(笑)

望 そうだね。

神保、待っている。

梨絵 行きましよう？

忠道 ・・・・うん。

美咲 行こう。

望 はい。

それぞれ、出て行く。

出口で、神保、収骨室の場所を案内している。

人々が見えなくなると、神保、室内に入り、ふすまを閉め、片付けを始める。と、骨壺が置かれているのに気付き、ふすまを開ける。

すまを開ける。

ふすまの奥に、収骨室が見える。

橋渡しで収骨している家族たち。

幕。

著者：古川貴義

* 本作品の上演をご希望の方は、箱庭円舞曲へお問い合わせください。

* 乱丁・落丁などございました際には、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡ください。

<お問い合わせ> 箱庭円舞曲

e-mail: mail@hakoniwa-e.com

HP: http://www.hakoniwa-e.com/